うたの二冊

宇治巻　七

哥など名ところ

Murasaki Shikibu

[v. 51]

[Kyoto, 1654]

PL788
.4
.G4
1654
vol. 51
Copy 1
Asian
Japan
Large

THE LIBRARY OF CONGRESS

2004551302

葉廿四丈の表のうら

家あるをみればのきあれしゆふべと覚（白ん）てけすゝ（浮くる）
世あましぐくきえほどはあるまじげなるさま。
人がらのまめやかなるはおかしうもありしかれど。
いぶあはれなるはうちかしくてやみぬること
とねくるおばさるあくは。女君（中）ともうちなるを
ことゆへおかれがちはまつろすぢのまれすくうし給
そり。忠（中ん）ずする心うしとこそづゞめうらえらし給
ありくいやくろしうて。ありのまゝみや覚して
ましとおばさで。や（葉ノ浮と）むごとなき夜の床までなし
給いざなれど。おさなるぬくまこゝろさだめて。
人のうへをさまる人と。袖のひさずあすく覚

出ゑんすもじさてこ（句ノ）ゝすゞしめべきれ心ざ侮は
もおほくざありさふう侮人の中にもじろたすうまれ
ともの語ふれんと。おぼしきちぬるうざりそしおる
おぼえ置までも。哥させずふれ心ざ侮よりしぬなず
なりはさづり月日さへて貴しとむめかおくりは。
まそでなすずこゞしさとり出語てん。侭う（句と詞とのる）
ちりつくしさう語もんいうじもん。うづるざ侮（句ノ好色）
まもいとおしくこそいありとも。ふきぐべき（字と句とにある事ありとて）
人のれころざ侮なるしく○ぞのばよその人ょるもそこ
まくるずづりぞおぼゆべきぞそてもうくてもりが
とそふうそてはせてそこあるうじとせぬへし語つく。

はかなきわざもこゝしはぞ絵はぜにこそが画よ
つきぐさくはえいひなし絵なるべしこめて物
あんじこゝろよみつるの人なりてぞおほく
けり。よれ（蕪ん）人は毎さへなくのぞうるあはれしなさき
で。絵（浮ノ）ざ紙なりとせうらんとこゝろづすうのき
ぞやかのひながし。家をさこの稽をさうべきついで
なくてやすくうるひのべきところなるだ。神乃
いさむころよりもわりなし。されど今はとくかて
なさんとす。山里のあばらめとぞきこえし心ある紙。
すら日（宗活は）ずまへめべきことどもつゞり出て。のが
やうなりてもうらん。さてさびしは人のこゝろすゞさ

すゞろにてやりくさうるはりみだり（ほう）にとも
のどめときに。紙にあまもひとれまどきあるまじく。
まれめまてこそうしめ。まうる何べぞいつより
なぐさてとゞめられんも抛さはがしくぞゞめれ
心まかすべし。文（白）家の風（中）りくのこゝあはさんとも。
まことのこゝろをこそはくさうおそまもるれ。ゆなを
まうすればかなんもいとほいなしなぐさしきあ
むかも（地）例のいとのどけさすゞろ心にあるべし。
（三条実之）つみすべき事あはしまうして。遊びてぞつらせ
結けり。（業心）すゞしいともちゝやうもなう結はされど。
（白）家の風（中）りくるまはり。紙さゆゑなく心よきつくしまうり

給こそおはすぐやうなり。こゝにてまじる人もあやし
ことまでこそ人〴〵、世中（中心）をやすく覚しとり人の有様
とききこゆ絵まゐる。これこそいみじき事をわすれ思
心あるべきこれ。あるべきさへあさましうあはれなれど。哀
もすくなからず。わび（著）まどひ給までありし人〴〵も
世の覚えも事なる家にもあらじ。家（白）の風心高
あまりこれもしげなるさへはべれば。おもひさだめずなりけり
すくせは。こ姫君（大）のおぼしをきてしまゝにもあらで
ぞ。かく物ぞしるべきこともありそめけん
まし。おぼすおぼしくなん。されどいと（甚と）めでし
給こそいかなうし。事有もあまりむかしへだて

ゆきかちくのれ心まかりさらぬ人とぞ。まよく
まことゝ人こそさかりのゆり為らかむつび
ともさぬまづきぐし。それ中くうかざりある
ほどに。何りうびさありさ庭もいくまし
それじ。家白のうちずおぼしうらびろをいよく
ろうしうおぼしもうらり給つなぞのづくうとさき
さ庭よあすりめとぞうきてもうちずおあじころの
きうり給きめあすりそり。白こやもおくちすれ中ぶこそ
こまうこふしもまづれ。切りぶのいそうりくしう
おますけ給まくに。白んほうまうく人も出くまじき
まやとやむじこあれまみるおぼしてがちとけ

なかしさる程に。人々（中と）はまゐりてまてなしのへだて
みつしより（けん）はすくして物おもひきげまりてすぐし給。
（白中へ）正月の一日すぎされば。はりめて。わか君のうへ
えりのへ家さまて あそびけらし ミ給ひけり
うらいささけれは。みざりのうすやうあるけるミ
文の。おほやかなるま。ちいさきひげこを小松有
つけたる。文すぐしもさて かざりそへて。おふ
あくるつまましる。おふなる（中）とて まつれば。ミや（白河）されそ
いづくよりぞとのたまふ。宇治（ワ大納）よりふい（大納中之ん女）のおさな
とて。まてはづかひ侍つ紙。れいのれ（お）前（まへ）まてぞ
ゆらんざんとて。ざり侍めると つかも。いとあさくて

ちらしがきして。これこしら○をきつかりて。色ざり
うつこなりけり。桜もいとゞうつりまでつくつまうえく
ぞとよく。思ふてこそいひつゞくれば。（白）こやもつらひあて。
（詞）いでわれもきてこやしてんとめすば。（中ん）お君いと
うらうらくおぼして。文ハ色いふがりやれとの
給はりやのおことこれが。（白ん）こや（甚）たねのさりげなく
さるしらぬ文にや。うぢのちぎりもつきぐしと
おぼしよりて。これかこととり語り。さすがにそれ
あらんとさきましおぼする。いとまばゆされば。（詞）かけて
さんよ。思んじやさ語りんとすうとのゝまへば。（中詞）ゞ
がましうあるうはそのあざちの中なからかより

ちんうらとけがことをばかんきんとの結がさは

ぐぬ氣色なければ、さば（白詞）さんよ女のかこぐさは、いふぶあ

ふとてあけのくればいとりやうつてまて。

（浮ノ文詞）ねばつうてとしもられ給はけつぶ山里のうさを

ましそ、峯のすゑもまくらなくてとそなしは。

られ、ワうざんのおまへは、おやまう給めれどもうさ

うりことまらくまうつもこゝろや、おぼしめ

さ浅れめるそてごれこそずさ浅こゝまへだげうり

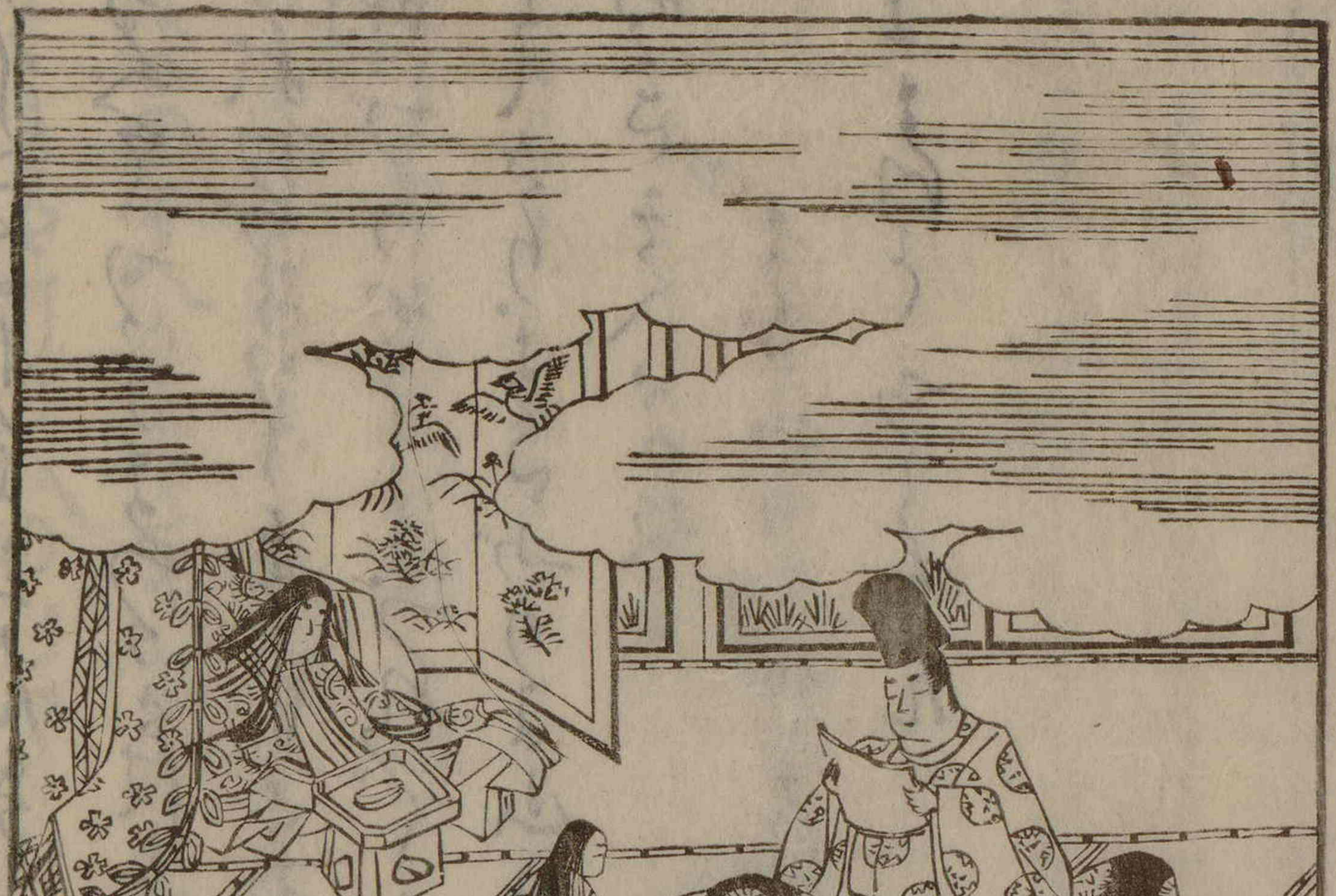
女のまもそて、筆（文詞）あそこまうて、御ずうさりつ物流

わうくまもいなさ乳もしされよろこび與く

御らんごさよいどめでさされすゆねのころふう

義経は御経ふまゝしくずにはかうくてのこつく
づくとうずゞめさせ給よりはじめくゞりまいら
らせめて。御心をやすめさせめへくも待かる。
つまうしくおそろしき抱まぼしうりてあん。まれ
うきこゝろをあげゝを給めさけうぐんの御まへにまとて。
卿づらよゝを給。あほ（白とこゝ）きおまへの御こんざぶくん
ほがゝよ。御こんざゝせめへとくあん。こ板ぐとくこと
いこもえしおへず。抱あげしげるうさ板ちぶかくく
あしげあうもぶら西しくおや志て御こんざて。
今（旧）ののめへうしうずぞとのめへが出（中詞）うしうれやま
ざゝまゝけろへのむすめれ。さうやうおりてげざる

しこにはあろとちんきて給しと字たしか人べく拝（はい）し
すべてつゝまうさはえぬ文ぐさを必しめすは
それはづゝしきさあるは程（ほど）しあるもの
卯（う）づちおしうつれてありける人のもとざと
きしかりまるかりよ山からずれつゝてにゝ
めきしそへたる枝に
浮（うき）まづかりぬ物にはあれど恋しきかゝる心
にまかせとらしつゝるん



（白ん）ごとくなることなき。みおもひいくつる人な（だに）
まやとおぼしらぬまゝなれ目とまりて。（白ヿ）道草
しのへおさけなりしく。いおべき文なりもわら
ざめつとおなぐれくしきれおしきまりなんよとて
まうのぬ。（中）なげきかなしなげて。（中ノくん女）（中ヿ）いとおしくもまさつるか
されおさるき人のとりつくんとひといゝでくさぞ
まつるでなぞ。志のびてのおふ。（かおろヿ）ごしまへまうば
いかでくはしくもまし。すべて此ことは。心ならなうとし
すぐして偽り。おもひきはめて。人はおほとなるか
よそおしなれなぐさめば。（中ヿ）おもかげおさなき
人おもふこそそとの縁。（地）までの冬人のまいらせう

わかものゝはいとうけくりかれど・文（白）もいと
らうらうしく給へるなり・わ（白ん）がれるとありはしし
ましておやまちしもあかれゞちまう（甚）ねのうへ
なふことは年ごろさしずとこう申さるも・母びて
ようとまり給時もありと人のいひしとぞいとあまり
ある人のかるとてもさりまだるところに勝（び）みし
まふんことくさつかはやうの人かくしをらち給
へるなるべしとおぼしうつくしもありて此文字（学文）
ことはつけてうひ給ふ内記（ないき）なる人の・かれ（道空之）甚は
あぐしこさよりと覚え出て・おもへはめず・常（大門記）なり・
（自門）わんふくさとすべきま・集（しう）どもえらり出てどうするある

ぞしまつむべきことなどの給はせて、お大殿のうぢへいまするとき程へしたてずや寺をとこそいとかしこくつくりたてられは、いかでかかるべきことの給へじ寺（大内記詞）もいとうつくしういかめしくつくられて不（ふ）断（だん）の三昧（ざんまい）ごうなど。はとさうらくきさでられけりとゐん。さうてなかつぐよひ給ことはこぞのおさばよりは。おりしもまさりて惜しくなふあり。しまの人々の悦びて申しは。女をあなかうしすべききめへら。かうはある。ぞおぼきし人なるべし。おれつくりはらうじ給ふのひとゞもれ給まてまいりかうまうか。母おまさしあてなげしつゝ家よりもいと

志のびてさるべきことなどともだちをかふいかゑするか
さいはいへのさすがなるところはそぐて知かへるか
なんとなん。さごこ此志きすのころほひなどこそ
侍へしことこそ也。いと（白河）しられしくぞもこそ川つかれと
あのほ志そて。ふ（詞）しつるその人とはいはずや。うしつる
まくらにあつおまぞとふこひ給とこそし。おまへ（大内記詞）
らうるなんすこ侍けりげん（侍）へはいまそぞられさるな
あんざるなげなき女房などもおまくし志そて。口おし
くろぬけるひとこそみて侍さることこそ也。とり（句川）しこそことし
れば（ゑま）のころありていかなる人をかふきてすゝへ給
つれん。我いと気色なりておなべての人まくぬれたる

なりや。ひがりのおどなど。これ人のあまりなる（ごうざい）れ。
すゝみて。山寺（でら）にこもりさんへともすれば、とまり給なすう。
かゞしさし。まどかさなど男しぞ。げなたまでう
さしも佛（ほとけ）のうちには、そびありくらん。あな憂れ
山里に心をとゞめてうとるんなうて、しくらうと
くそいありかれ。いづうひとらりはまめなうと
さゝしぐう人もごとに人のなひいうまじき。
ら使あうりまへよとのあて。いとおゝしとおぼひ
くりぱ人（比大内記）いうれ。芸（芸）まいとむつましくつうまつる。
けいつのむろまちん宿それいづくし給ひともなく（大江大夫佛信）（遊空）
あうべし。ぱれ（白ム）心のうちにはいかましてこれ人（浮）せ。

みし人〻ともさゝぐかん、かれ悪のさばりてすへ
きかばあべてのこうしき人はいあしじられ（中）により
まはいろでかうしくゝぬまはあん、心をかさして
かくしめしたりけるも、いとゞのこりておぼゆ、さてそのこ
とば、これごろうにおぼしめしたり。のりやすいゑん
ありすぐしてこゝろのどくあまりまづさめしあど
いひて、人の心つくすめりけるは、格ともおぼさるじ。
うぢ人へ志のびておりしまさんことどものこゝおぼし
めづらしう。これ内詫（ないさ）に、のぞむことありて、しらうのか
いかでそれめるまいらんとせふこゝろ。花（句）いとゝかをとし
あかりしうめしつゝひて、いと（内）くるしきことあるとも。

我いもんといふざりてんやちやどの給ぐしこ倒（大内記詞）
かまてさふふ・（白河）ちびんおまこしあれど・扱うぢ（ぬれ）
ますもんひといふやまほのまゝし人の・り染も
あらずありまし・ぐ（葉）ちねま君とられまけつとぬて
あもすかこしこそあれ・くしらすはえらべこやう
もあるらば・らでみれよりのぞきあゞてざれらのぬ
うとこらぞめんとあんおまふ・いらくへはえらふ
あじえらきへてい・りずすべえとのくまへど・（六角佗仏）おれ
ひづらりとせへど・おり（おつ詞）まえんとい・ひとのくらき
山ごろあるん侍れど・ことゝ程ととく いさつりず
あん・ゐつゝ九出家也おりしまして・おゐ孫のはまは

おりしまゝつきなん。さて悦（おつゝき）まゝてをりなし給
給りぬ。人のきりゆらんとぞ。げれどもるさつくひ
ゆらんこそい。ぞれものきころをいそでらきり
ゆらんと申す。さりし（白河）莫（むり）も一ゝびニゝびゝひし
ちちあずり。ゝろぐきさしまざきとおひめべきとぐ。ものゝ
男のつまさしきなりとそ。盛（白ん）あつまずきゝとま。
球（まが）れ心まもおもぼきぐうしまぞうち出のをひつれぞ。
えさひとじめ給いず。（白）れどもま。堂しもうしこ氏
あるいさわりしま氏二三人。以団化。さてはれめ氏と
ぶ氏蔵人よりうありえころつゝきへ（出雲権守時言之）。むつまゝこさ
りぶりうきえりあそ。（蓋）ちねぐさあすともかいきぐあぞ。

内記よろくあふいそくめひて、いでたち給ふ

つけても、いにしへをおぼしいづ。おやこきまで心を

あくさをつゝ。おそれありとて、人のつまようこゝろめくさ

わざともあかれど、おぼしいづることもさ海ぐ

なまる。京のうちづまむげなる人あこぬれありさま

さはいへども、給ちぬれ男みしも、おやこきさ海の

やつれすがたにて、小馬（こむま）にておしすゝみ、こうちま絶

おそろしくやまし、なれど、ものゝゆくしきろいは

すゞろつる心あれば山かりたすらまくうり、いか

さていりおもん、みあくすることもなくて、くへきん

まてざうじくさく、おやしうるべなれど、おぼすなり。

こゝろもさうぞくのぶぼうきうじの日ぜまでも。御車まてぞれよりぞれ馬まて尺そまいりけり。いそぎぞくよおすぐりほどまおもしまし ぬ。内記あないよくされりが。れ番の人々まちひきうりたれば。番ある人へおろ〳〵まはよろこぞ。おしがきさまとめよおよしおもてをやさゝすゝこぼちていりぬ。我らさすがまちぐこめれすまおちれだ。らずくしされど人々さげうあまぞしあり〳〵。寝殿（しんでん）のこれおもてな。火印のぐ〳〵こて。ぞめくとさとす。まいりて。まぐひとりおさて御らべし。ぞ。これよりおりまゝんとさうべきて。いれさてまうがやさ

白 のぼりてぐ゛しのひまあゝとこうけてくらう給ふ。

白ゝ いとふすしざうぐとあるもつまし。おつゝとう

ころげはつてまされど。こみすゞまおつゝくまつて

ひまありける給。ふれりてしこそてこんとうちとけて。

あるもめやぐぬちうべし。華のるびゝおけて

ぞしやまし。ろ。宮おうとめて。猫めあく三四人ゐ

うりけこそれおくしげるゝ。いとはちでよろ。これが

くれ。まづられはゞげる。こゝ給し（浮々とく）これあまり。うちつけ

絶えうとれうろゝぐうしこさるま。宮（うこん浮ノ女だらう之）をとるみちりしわうき

人もあり。宗（浮）いうひちるを襟（まくら）まて。宮をちゞめころまきゝ。

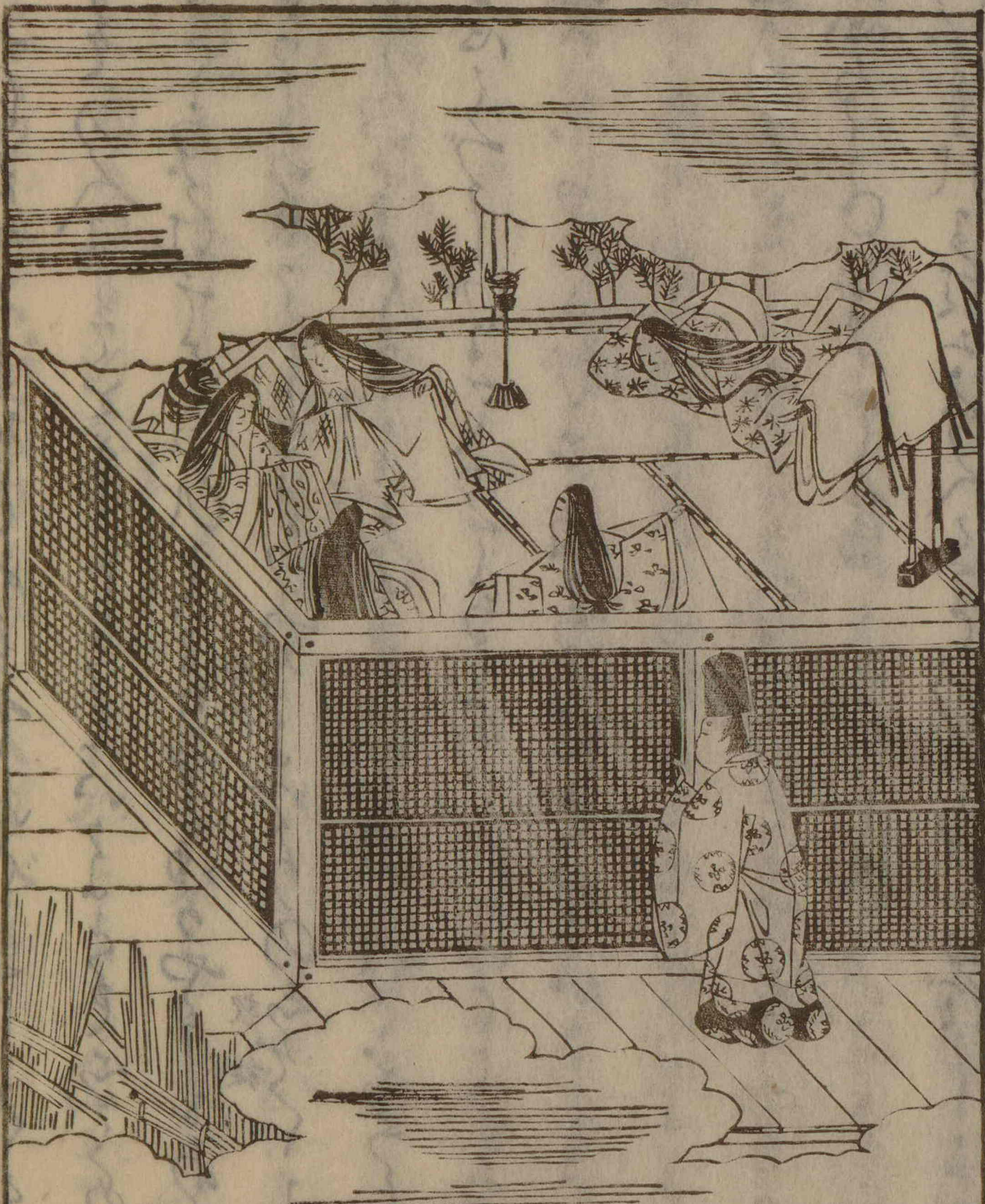
くみのこぼれとうこひいつき。いとしおそや

うまう海めきそて。さひのけりく（中）はいとようやうらう。
これかれあかきそて。（太上詞）うくて（右近へくすり）いつくせ語るば。とを
うたもえくりいつらを語りど。歳（蓬）はこれけりかさ
かしのほどすぐさそて。一日（ついたち）ごろはからすずかりし
まうあんと。昨日（きのふ）の流（こ）使（つかひ）もやりけれ。ふたまはいうぐ
ここしさきのかへりけんといへざ。うへ（浮）もきぞ。いひと
抽ひかうくしこまり。あり（左上詞）きもひかくれさせ
のへるやうあらんが。さぐしさいへども。じりひ
うらへ。それ（女どち詞）はくあんいつめるとて。はそそこ
ここしのへんそよそしめ。かぐしくいかで
かは。とあそてはきめくれさせう海りん。（右上くすり）はまよ

まうでの後は。やがてかへりおはしましぬらし。
かくて心ばへこそやさしけれど。心はまさりてやすから
うちつれすまゐるまじひて。ありくさびぐらす
べしやなどいふ。まろあは我（女ども詞）志げくて給へ
きゝ給はんぞ。のどやかなる御よろへき。京へなど
むかへなどせめすへん後。おぼしくておやみもこ
こそてまつゝきやめすへうし。これおと（めれとゝ云）ゞのいとこちうは
あれしめすてばこゝか男へなし給なりかし。
使しもいまも抱めりじそて。のざかなる人こそ。
さいなからしこそて給なれなどいふなり。右ちなどて
これまさ（めれとゝ云く）などめこそまゐらずなりにけん。花（おひ）ぬる

人は。むつしき心のあらはこそとらくむは。めれと
やうのひと給そしるあめり。げおまくさ（白ん）れあり
きこしと覚（白ノ）し出るも。夢（ゆめ）の心ちぞする。うく（女ども）ゝ
いつきまでうちとけしこそ。ものいひて。ぞや（女ども句）の
（け）けんそいとめでたきれさいちいあれ。右の右（夕）夜の
さぞかりめでたきれいうらひまで。いかにしうの
ちり給あれど。ひわざにむまれあて後にてあまく
ぞおりしまするがしさしつゝべど色のおはして。
れ心のどうかうしこうもてあそびて。おぼしまする
ふそいあめれといふ。夜（葉　女ども句）ざるままやうにさなひてこそ
若さとうしずに。とくりきこしあすべきこゝろと

いちばかりすこしおきあがりて・は（羽）くこしまくこと
よその人はそとさうじともいふともさくめ・られ
れくちなげてもいひそ・ありゑゆうやうもあくが・る
さうゝらんちかゞいふ・ちるま（白心）ゞりのきゞ（軟旋）くまは
あん・ぱくよくもまうま（中と宮と）ひろけくひれど・さくくがる
よ心こゞしげまそ・おてある雨い（汁）されハひとしよあす・こ（浮）
れハこゞらうこげま・度たる雨ぞ・ひとおりしき・みる
ちうるりあきめ雨紙こうけくんまでざま・さゞり
ゆうしと望しきあくう人をぞ（地）れとこてさてやこのべき
恕心あるゝ◯ばかりて今度まあくこ絹ま・うで（白心）くされを
ひがまれまはちるすべきこ・けりちく坦ばしまどひぬ。



（浅ノ句ム）地へゆくべきさためなり。おやはおなべし。いかでかく
あそで。文はかならずあるべきことのほどにはまかる
いはずすべきやうなるこゝろもそこはなりのそおとまなり
身へが名をいと（ちと詞）ゆきしよべもすゞろなおかさ
あはしてさぶとめその程ごとこれにめひてん。
いそがせ給たれ車は日そけてぞあるといひそ。
あさしくる物どもさりぐして。事まちうけるど
しつゞうゝれのさ後まよりかしぬ。恋（浮）もすべし
あくまいりなしかず。名をおもてまいそそがし
まゝぞむくる。恋（浮）の後（わざ）ちくかし（たを）ぬ。ねがひしさ
ふなれだ。いとさうねつりめてる気色をとめて。文（あん）

やうもあるけれが、わびやかましこれかうしなさるゝさ
殊に右とてつけて、ふてといひゞしくくりあへど、（白）
（太夫ㇵ）あてなうもがくなきさてまりて、夜のおりしらう（謡）
まやしやそ、打さて出うり、光これあけまとののへが（謡　白詞）
（太夫詞）あやまう荒しあさきなれどまもやうれ、案につくらう
かけぬらん抽といふ、なみへゝうりのあへかあうりと（白詞）
（ちりのぶ謙信ノ家詞之）謙信がいひつれば、おどろかれつあつまりて、
いそこそよりあうりつれ、まづあけまゝののふゝゑ。
いそようまゝびよせのて、わびられば、せひもらず（謙ノ上ニ始マル之　太夫）
（さきと）えいまあう、こちまていとわうあくかまろしゝさと（白詞）
のありつれば、おやまきさすゞしは嫁てあん、中らう

あすきとのゝ人が。（太夫詞）おかゝりしとあらしてまだひて。かへ
とりやうさ行。（白詞）これ人をまいらするよ。さりやゝくて人へ（おが）
あるなあとぞとらうくきこされころすて。あさとらう
絹のまゝ倒れ（よ）ころれける代。ぞがみれけるひよあるら
びそいろ絵。（太夫詞）ゆきさきとのき殿とのへらい
（ふう）巻れすゞるあんとつゝおしろそ。紙もうくろへて
ころてまいらふとはそやうまをるく（白浮へ）とさうぞ
さて。おれうりしさしもとさらずちうゝよりて。
れぞどもめぐさおすれがはお行ふしうまへれば。（太夫詞）例の
かゝのしまをそるゝぞいへど。（白）かれものゝ絵がれかす殿
まいりて。（太夫）れつる人ぞかおろしてずゝしあぞさて是れ

ねぬれどもの人なれば例（れい）のことはしてぬなるらむ
まで義ある果のおもしろき海られうつれなり
さ海をたらんじあしぬよまじいさくらばれ
人もあれど。おほ（太手河）うまめへ。義ごゝろにさくめくゝまで。
いとうましくてつゝひつねぬ。や悪（浮ん）もおもしぬ人
あり。なりとも。ふまおきましうへじなれどもなは
ずまでさそ給はずいとつまじかりし承りて
ずは。つりありし。れ心あるれば。ひそふつよおきまし。
うじめよりあるぬ人やまりうしと。いさゝかいふ
ゑひもあやべし紙。夢のころすまや。うくその
物のうつろうし。さしどろかまひつゝ家き海

の給はずれ（句）家をとりぬ。いよ〳〵さびしく。うれ
（中）げ人のおばさんをとあづせしまゝ。まゝ母けさことお
そればゞぎりあすくあすく（白ゝ）家もあすくまそでうやすく
あひこざんとなぐさおばすまあすさぬふ来ハ
さいあけはあくれどもの人きそことはげらう。たとを
ミこてまいれり。（白ゝ）甚給えん心ちまあくあがあれ
あすりま。まゐるおりしまさんこともかれば。京まハ
もとめさはぐるとも。なにがりかくてあぐんあまは
ごともいけうくぎりのくあこそあれ。さでつまいぞ
おりしまさば。まことはおあべくおばさまれバこの
わとさめしまて。（句詞）いとこちあしとあられぬ

べかれど、けふはえいづまじうなんある。をのこどもは、このわたりちかゝらんところに、よくかくろへてさぶらへ。時方（ときかたハ出雲権守之）は京へものして、山寺（でら）に忍びてなんと、つきゞしからんさまにいらへなどせよとの給ふ。（うこん）いとあさましくあきれて、心もなかりけるよのあやまちをおもふに、こゝちもまどひぬべきを、おもひしづめて、今はよろづにおぼゝれさはぐとも、かひあらじものから、なめげなり。あやしかりしをりに、いとふかうおぼしいれたりしも、かうのがれざりける御すくせにこそありけれ。人のしたるわざかはとおもひなぐさめて、（詞）けふ（浮母より）御むかへにと侍しを、いかに

きこせ給はんとすれども、はゞかりのがれなく
さきも給まじかりけれすくをば、宮しまこしさせ
わらんかるなし。おりこそひとつかたくなれがふは
ぞおりしまして。れ心ざし給ふが。のぞかなもと
きこゆ。（白）およすけてもいふなれと覚して。我（詞）は月
ごろ物思ひつるは恨れさてはられが。人のもだんも
おもはずびこふるまひありまとりず。そしも女の
こゝろはおもひぞうくらん人のこゝろありこはおもくち
あんや。れかりたゞ。なかてあれいとなゞいへうし。
人はおもふまじきことさ。めぐらしめなもさへうし。
ことるすいひなしとのあて。此人（浮）の世はおもはず哀は

おばさま〳〵まで。よろづのそさうもわすれなぬ
べし。右をいそぐ。これとともなふ人まゞくらんの給へ
すつば。我いとゞうらみちなからんともやさもおもへ。おはさ
まじうめづらかなるまじき有様ハ。さおぼしめ候とも。
けれどもの人ゞもの所にこゝろうつりこそあらめ。
いかでかう心おきなうハあそばし給ふぞ。おもあげ
あまごとを写しさする。山ご所なども待しまし候。
いかなるまじきつみ酒（まい）池（みさ）にげまいさワづらいし
らもあつれさせそう。時方（ときかたこ）とおばをもうつし
られまかざらんとつくふげゝのてうがん給へと
ごもののおばえろしくれば。さぞばともまかでおそぬ

太と同

時方同

べし。まめやかなるかるしぬれ気色ありて
まうれバ、これもくせすゝてあん。よしく家ね
べもられあらぬるりとていそぎ出ぬ。居（太上人）人は
たうすまじうハ、いうだハさバすけべきと。まりあるう
かばゆく、人べかきぬるゝ。家（なを门）ハさうやうそていこぞう
しのびさせのおほしたちてまうれバ、こちらまて
いうじなきとのありけるあり。或ぞ犬なるぞよあり
しのびてまいるべくあるん。御（おほ田）られつらむどいふ
ぞぶらあ（後達门）なむくつけやこれやまハいとおそろしく
うなる山ぞうし。例のれきさきおりを給もずやけ
ねてかうしまじけんよ。おかいうぞやといへぞ。

あふう庵（なまり）く。下（げ）まるでのちりぢりもなくてらんは。
いといろじうきんといひおくうちあさろし。
おや（ちそん）まくま悲（慈）の御使のあらん時はいまいちんと。
ちけれ観音（くわんをん）だいしとなうてくしのへと。大願（だいぐわん）
とぞそけり。石山（いしやま）にまふまんでまきんとて。母君の
ひりふるりなり。それ人ぐもこれなし忘（懐妊）。こなは
まりりてありまき（今内）しがなふいえつても給もじきさ
るありれ。いとくちおしきこといふ。同くいるれば。
かうしあどいげて。そとぞちくつきまつりけり。
まやのみずぶれはこれおうしつてて。まれひをあで
りくもてしつけいり。母（継母）君まやみづへおひすかとて。

若ミきゝしりつゝひあはするなり。れてくづ
ちがゝまいりうる宮ハ例のやうちなれど。まつちなひ
めざ海ちゝうあばされて。（匂门 浮ニ日来先つひ給ふよと）そこるおゝかまし給ちぐだと
ののふ。女いとさ（浮ん）海ようゝ心うくき人とこちちらひろう
よ。時のまもこゝぞろんハちあべしとおぼしてがまく
人ゐき。心ざしかりらは。ころをいまやあらんと
ちそゝまもおやちりけうれ。されもく
もの〳〵ゑしあるが。いるあばさんや。（匂门 浮ハ浪ぞとの心）まづみ代（中）うへの
はころをもおゝきまれど。ぞゝめくとあゝいと心うち。
ち紙あゝん。まゝのめへいゝでさげすやうかとも。
いよ〳〵あん表あろべきよいりあきよひちまへど。

（は）そのはいゝへにてそを汲ごとくにして、いとおかし

くげぢげきゝ毎よいゝへきてあそびて、あそびき

うちを、いとし（白ん）限（かぎり）あらうらうしく、のみ終日しく

あまた程に、むかへ（浄海より）の人ゝきたり、車二馬ある人ゝの

例のあらくるま七八人どのこだおほく、ざうがく（ほノ女花）

しらゝめけるひ、さえづりいゝりき、されば人ゞ

くるゝゝるぐりつ、おもく（ひ人の人）まくれよくいち皆

あまず、名をいゝまちんとみれ、あんあへするといひ

さんよ京よさばくりの人のおりしおもをずとの

げくらきくらひて、くれあさこともこそあれと

さぞ、これ人どよもとよいひあそきず、ゑまうく

右手ノ又ノ句

よべよりけ゛れさせ給て。いとくちかしきこゝち

おぼしうげくめるさしまじよろひ愛ことさげしく

ことさせ給へれがふがりいしきあのへとて

なん抱いこまそ待ち。平くるしく抱の海さげの

やうまうそまつり給とりさて。人ゞまさるゞ

くちきてやみつおほき（弁）君こゝもえふはまひいまて。

けより活ぬといきくり。（絵ん）これいはらしがくの

こりすめり山ゞたをあざめ偶（玄ひ）のまくれめ（中け）はまひ

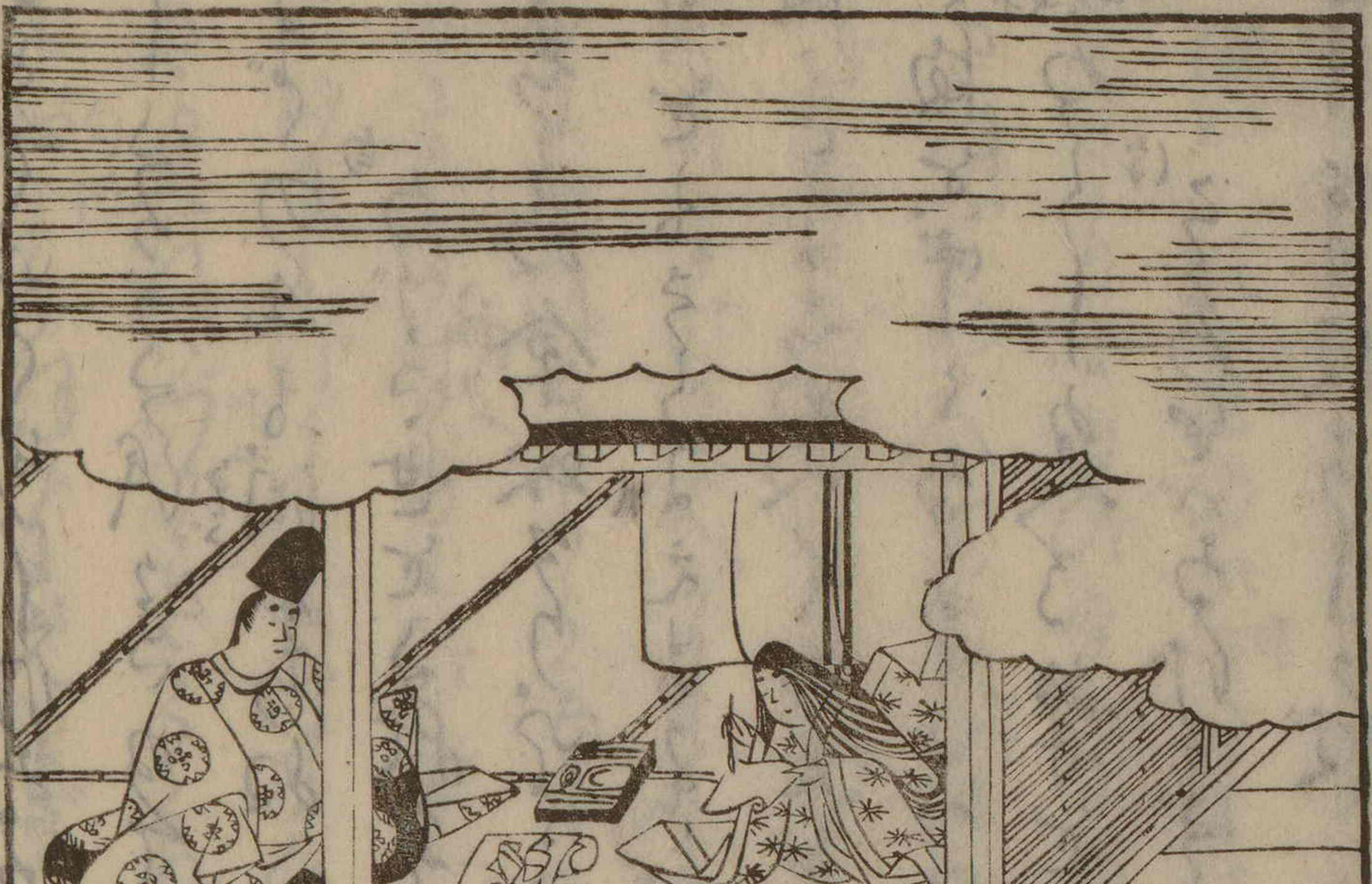
しくのこあげしいくぬ人（白）まひられそまつりて。

いとそるう賞（乳）ぬ。ま（自ん）がなりくことあくのがけさ

まの同まされどもしあのず。それことぞと覚ゆか

ら夜なく。おい形つきなうしくあくしげなり。
きやういらん虚のれうりはをとうなり。大々安志
志のさりま自ひのへるあゆりまてたこてよなりか
べきほどの人と。女ごひなくおぼさうしほどなれば。
まごゝろずわしやのこゝみなふ。系れまく大納言を
いとらなげな。又かの人おもんやとうつうどころ自
やうま自ひとうりなりこと。ふ。うよなく　おもく
ありところ。ずつとひとつきて。まなくひなるが路。
いとおもしげなるすきひ。志なげとも所お陰く
うきのくれバ。うきこうちまいがめひもうりぬ
べし。心よりはりまえまぐらん程かされどこなん。

よそてい。とおもしげなる男女（をとこをんな）が。かるともはそひ梅
しうろゝ浜さきおそて。つゝまくておもしろや
なげきの袖も。涙（なみだ）おちぬ
白　あぢきさ世をのがれてもれうるしきはゞであ
すまゐぬ命（いのち）なり。いとうさへゆかしされ。心は
身をもさらはえまりきず。まろづはさぞかえんほど。
身にもまきめべくなんおぼゆう。つゝうりしれおり（二条院そえりゝ）
さ身を。中ゝなまじゐ出げんなどのたまふ。
浮　如めしのへつ筆をさりそめ
浮　こゝろをばなげきまし命のこきぞめなき
世と相はましかば



とある紙ゞ（匂）きんをばらしめしうらなくぐりけり
ところせきも。いとらうらうし。いかなる人のこゝろ（詞）
がまりをとこなしひてあらじ。ほのめかして。大将（薫）のこ
こゝはつかしそめ給けんほど紙。あまくゆるしがり
あてとひの紙。（浮詞）ありしがりてえいそめことを。
かうの（匂）給しそてとうちあぐしうつ夜もわびさ。
をのづからそれいとゞ出てんとおぼすものから
まぜまほしくてかりものや。（女を入てかくさんと云也）よそりまうでへつり
つるいみ（時方）まいりて。おとゞあひさり。（さゝいは時方詞）君のこゝやりも
御使まいりて。（ひろうれ右大臣は夕）右大臣殿もむつかり申さきめて。今
たゞいさせ給へれはありきは。いとかたじけなくく

あるめけるかしこしもあり。どすべてうちあぐまことく（全）
めさんことも其のこゝろなん。いとうらさで。いらしく
ゆきも語りり。茶山にひざりのかしこにまゐらん。
ひとつはもの一語つらぬかずりの一。あしそのつき
かうおこなすりも私にはあれ。ずすろあるか（見證 証拠をいふこと）けそうり乃
ひとは茶山へまでりのめで。雑言（ぞうごん）をさへをさせ語よ
とへば。（左右詞）ひざりのなをさへつけさせてさせめて
ぐれば。ひとつ。しつくりのつこもされまで何か
がし語らん。（時宜詞）彼らまいとあやしきれ心の。げに
いくであらしきもき語けん。ぞのそうかりしまれべし
とうけゝ彼ゝまゝ。ひとかうげけあすれば。

たゞりあしまてまし抱侭おふちするされおりらと
まことくおつひあゆま（太后）いりてまるんとものび
あゆればけゞい（白ん）かうしんとおぼしやうは前もらき
すゝそわびしられかうてある行の衆上人など
まて、ふりしあらびや、いうずすべきかうつせんべき
人めもえらびりあつまりくるん、ちゃ（芸）おもいうま
せちんとすゝん、さうべきゆゞしいひあすらおや
ちきもまでむしよりむつましき中まうろ心のへ
ぞそのちられらん時ぐづしうまくいうえり
ぞや、よれさひまいすともあれぶまちどとるか
わがどうりともちしずうられ給りんなさん

るんかのまふ夢にも人にまみえれ路まじ見え猶そ、

うあすしぬとこゝろはゐてもちかれ見てまつんとぞ

ののみぞかきんくきてこもりぬのみべきあす○ぞ出

路るんとすうまも袖の中まぞ〆めのみんう、

明うてぬされまし、人でみてつきおどろうしめ

ゆふつまぐ戸まゆらきまぬておりてえ、出やり路いず

世るまつずまぐみべきされきまるつ涙も

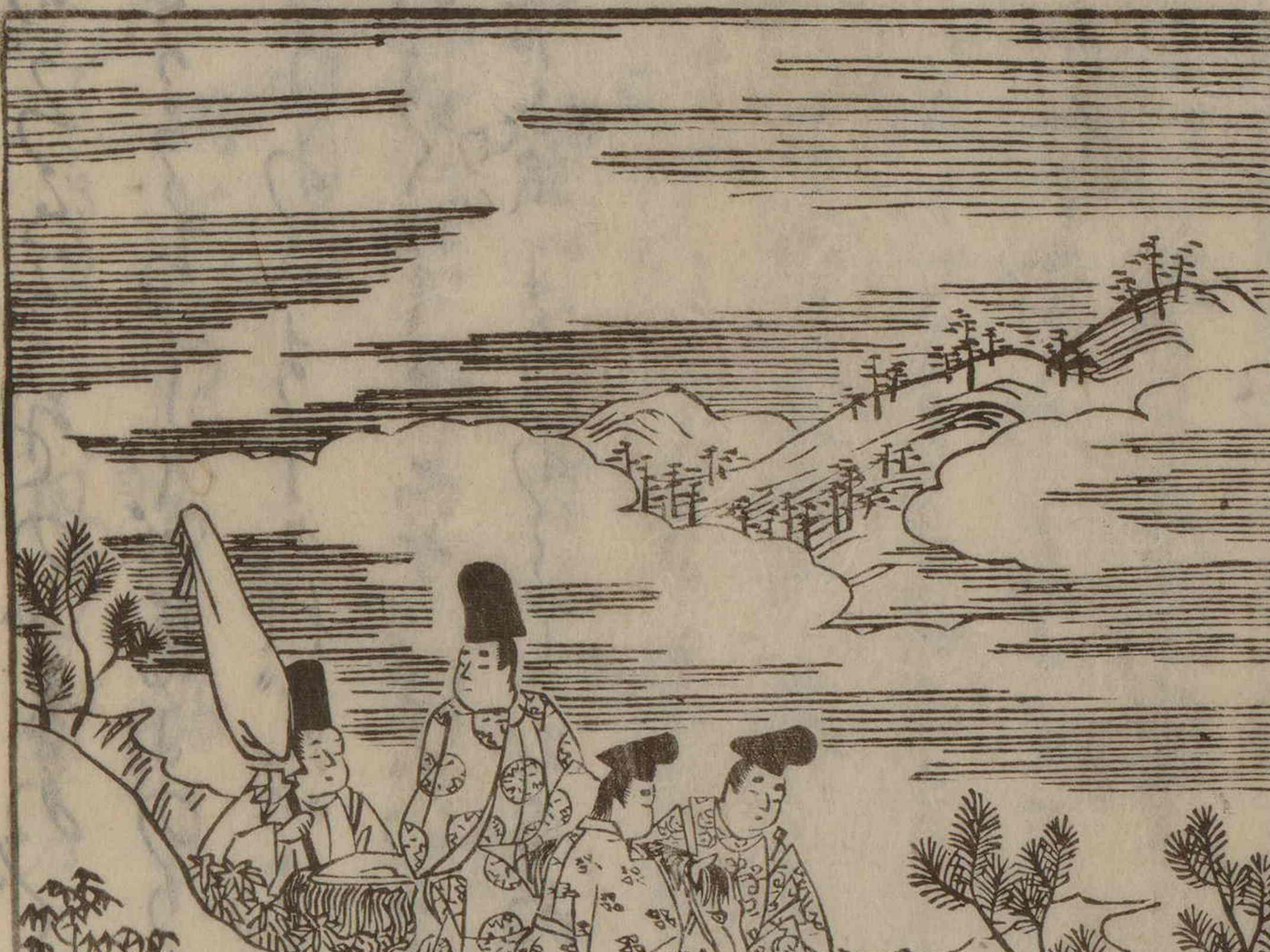
うちとうきくし川、女もくざりあくあれ

とむゝ

涙ともほどちくきき袖まをききく○ていくま別を

とゞむべき方ぞ、風の音もいとあはれま、霜かくき

あらそふは。都のがふぬぐも。びやくるなり
さうろうちして。ハ馬よのりかよほど。ミる人をや
うるわさましされど。ハともの人ぐいとゝふ
れまくしとせて。ゞいそぐしはいそぐしづ
れど。紙（白い）よもあくで出ぬ



（白ノ御法ノ衣）これ五位二人あん。御馬のくちにはさみひかへ。
さゞしこゑ山こえきてぞ。をきのく馬よりおりのか。
（白川）河のほとりをかけまはす馬のあしをとさへ心
ぼそくおもひげるし。むかしをこれみちえりのこ
こそへうかる山かぜは志賀しらば。あやしかり
ける里のちぶりあれとおぼす。二条院まおりし
ましつきそて。（中）おもののうと心うかりし御拙がくしも
つたれば。心やすきかるまお月殿でおりめるま。
猫されれ給りず。うとさびしくさる。まれせひまされば。
心よくくふうまわりぬめ。（中ノ）おまごろもあすくびと
えへげまそおりずめづらしくおりしとこ給し

（ほ）人よりもなほ（中）これはあさましきありげなき海も給
へりしときは綾袖にまとひてまうつそ綾うへむせ
おもむけかれはゞく見れば綾しうこ廻
まづ三丁まいりて袖とのごまう（中）女君もめでゐり
まさしめて（自羽）心ちまでいとあはれはかすんと
すまよきいろばそくあんあるが（まろ）丸にはうぞくる殺と
ことゐふてまつるともこれ有ぬにはいとくくらり
あんし（甚中とかきひ給ひんとの心）ひとのほいしなうすなみなれども
のかふ（中心）かしのぬしとせもおめやかりきんの給ふ
あまいでて（羽）給りこうくこしのまう男しうば
いかにかは男しるまでこ（甚）人もせより給ん

まことあしくなれ。心うきおもはずなるわろうこともあ
ほとかしくとぞ。そしきあり。家（白）もまめならずて。
まこと（詞）はつしとなさしめりこともあらんには
うゞおばさるべき。兎は恥かしめはなるまうゝ嫁（ちう）へゑハ。
ひとしれずなげくしなどしづむまでこそあれ人（芸）には
うゑまるう切（白と）もひおぞしおんべきあるや。それもさんべ
きまこそもとらくくなべぞて浮れ心
のかたきなん。いと心うきことの浮りもずく（浮ノ字）をの
とかうしてぞ。弱よりくろぞうしとおぼし出るゝ。
涙ぐまれぬ。中（沖人）のめやうまうといへおしういかやう
あかしもとこうくあくるあしんとおざうまるゝ。

いへあてゝ給へらんこともあるへし。袖りたまひさ海まて
こそめ給しまゐるまゝとも、うるゝまとしいり
給まゝそては、おしめずろなる人をきこえべきてそ。その
心よきはさまりわづらはしきあやまち沙汰（ざう）は。
おぼしとところまこそとおぼしつゞくるもおよばず
うるはしくて。いひぐらうしげなるれけるひあり。
白心　浮
みし人、うけたりとは。きこゆしまゝせそてまつ
らず。とおぼさば。ただ海まゐちまてしこなほ。
中心
さびこのむねのれことは。ずめくしくの給とおぼ
すゞひとや、そう（ゑ）ごとゝもうるやうにゆかしきん
あゞおぼすありやあしやまでこそぬまゐらせて

まろんもちゞしうちうり（匂宮）大宮（明石中宮）のれかくあらな
（白ん）おどろきめて御心とけぬれはしもことそおほゆる
まいりあひぬ。昨（女一宮）日のおぼつかなさ候。あやまちておぼ
されさるがうしくハまいりまへ久しうも
あらまけつとちゞやうまござしあつれバさげれ
そまつしんもくるしけれど。御しよまれ心ちも
さびしさやうまそてその日ハまいり給もず。上達め
ねどあまるまいりあへどもすれうちまて御前（くら）
し給。夕つかた大（薫）将まいりあへり。（白河）あるゝを
とてうちとけならずさいめんしあへり。（薫的）やまし
げなおりしますやうつれバ。宮（明石中宮）ハもいと思ひつ

なくおぼしめして、あんいやうあられあうやうる

うき男のふ（白ム）こゝろざしよろこびのいとぐまし

さればとくすゝめて、（上ノ）ひとりびといひちがふ。

こそあれかりける山がし心あれ、さすらひ哀なる（浮）人を

さてどちらて、（地）心のざつは、月日を（浮ヨ）待ちびさすらん

よそにおぼしめされて、御はこしもあるぬとのついでならず。

（上ノ）我はまさあ人とまでなしおり給を（白カ）かゝりかて、

よろびよのあひやがつ、うらみあしらい

よろはいかなの給はまし。されどもやうのさいかれ

ごもかけ給ひずらんかしげなこえさまへども

（上詞）かめんあすけざれ、おぼろつくしかしぬれころちの

さすがは日ごろかいゞとおしきひざは偽かれ侍
風よりつくろきをのへなど。まめやかに忍びて
出なぬ。ぢ（匂んぢ）らしげなる人なりし。がありさまを
いりはさらくべけんなど。ざ風く。なるこゝにつけ
川もらこ武（浮）ひも紙ばのまつすれば荒しいび。
（浮）りしこゝの武石山もとまりて。ひとつれぐなり此（匂）
めくるはい。うといひらぐこゝら紙くさあつめてつ
りす。それざるは心やすし波（じ）。時方（ときかた）（時方之）とめして。ふいふの
ず（後消え）さの心もまめきて。らんやみげつ。たをがう
くまれりける（匂ノ後を云く）への。夜（蓋）のれどもまで君の出そう。さ
らぐくりて念（ねん）ばかりと。夜（たきぎ）ぐちはいひきらり。

よろびなとぞ定ごとあるへひげつ月もちぬかう（二月二有之白ん）
おぼしいつれがおりしますにいとつりあまし。
きのえ摂伏せらうしぢ。さうしまえあつずふましさき
なありとど。こころばそさ伏さへてあげきかふ。古（茎）移殿
すつしのぞうまあまりめうしろ。術の母びて（家流ま）あり
うり寺（之う）ま仏（初け）あぢおがさ経。併ず経（さくそう）をまさ後僧（そう）ま。もの
あひあずしてダつくくくま（法ノ方之）はしのびされど。
これはりあくもやめし給をず。忽（蓋り）ずしるまし
のすずさ。いとおしまきあくさきのげまそ。おゆきり
後よりぞうづしげまあうしいとあり。我（浮仏）いくぞええ
うてまつしんとすしんと。そしさへちづしく（おかて）

かしこにはおなじやうなりし人（白）の御宿縁にやとおもひ
出かくはまさしく此人（菩）なるこそてまつらんなど思
やうなんのうしろ心さき我（自）身にしじうとおもひと
ども、これをひとりめぐべき心ちなんするとの給
しをげはその後はこちらしとていげくまま
いづくにも例の御宿縁ありてこそ法なぞさうぐ
なるをこそはまなるいは（白ノ）こそておぼえんとぞふる
いとくらしこれ人（菩）もくらひやけしひとつは心ふかく。
ある夜めしこそ夜もそひ（詞）さしうりけりほどの
さくこりなぎの給もことおろかならずきこしれ
しとありしかれどもつねはおひこめ念のくし

さば、この度よりこゆがまうちの縁へる、ふじくいふまたはまゐりて、いふ義と人のおもひめぐらさん度ともあへる人がしかるり、（浄ム蓋ノくまをと云）えんなかるらんもさる抱まて、ゆくすゑちかぐ人のこれをこのめべき心ざへなど、これなく度ゑりのへり、やうずなりこ度のところぐへなど、よりきらせこそんとえきちなれめるずいそぐくしそおんべそれ、（自ノ本ニ云）おやまうつし心もなう、おぼしいらう人を義とせうあも、それいはあるがしくうきまうぞうし、（蓋）されひとゐるやうしとせられてこれかひあん心ぞさはいかうもこゝめべくなれじ、（蓋ム浄ノ本）おもひこれなうぞしきさば、あれじあかこゐちなうそのところ

あり。およびやうかりはかり。つれ〴〵なるすさみの種に。
ひのうちはあしくいやしきかも。心ぐるし
それば。つゝよりもころゝとめてうつしひ結（ほどむえんとて結ぶ結えゝ）び。川ぐる
すゝ爾やりくしきあるしてなり。一日（ひとひ）ちん
しくば。こくよりはけぢうこさ水は。茶もこ結ひべし。
と薬家もちうさほどあり。あけられ拙ばつぎさ
へぞそもぞのづゝあつかふじこと。之代甚の程は
さりめべくハつかしてんとせそのあふも。隠（白）人を
のどかなるべきことわざひまけくりし。昨日（きのふ）も
のかへりしど。かくこともしるしてざ拙（莫ジ）はすくん
まく義なばしもぞなるなまらびくべきは是あらず

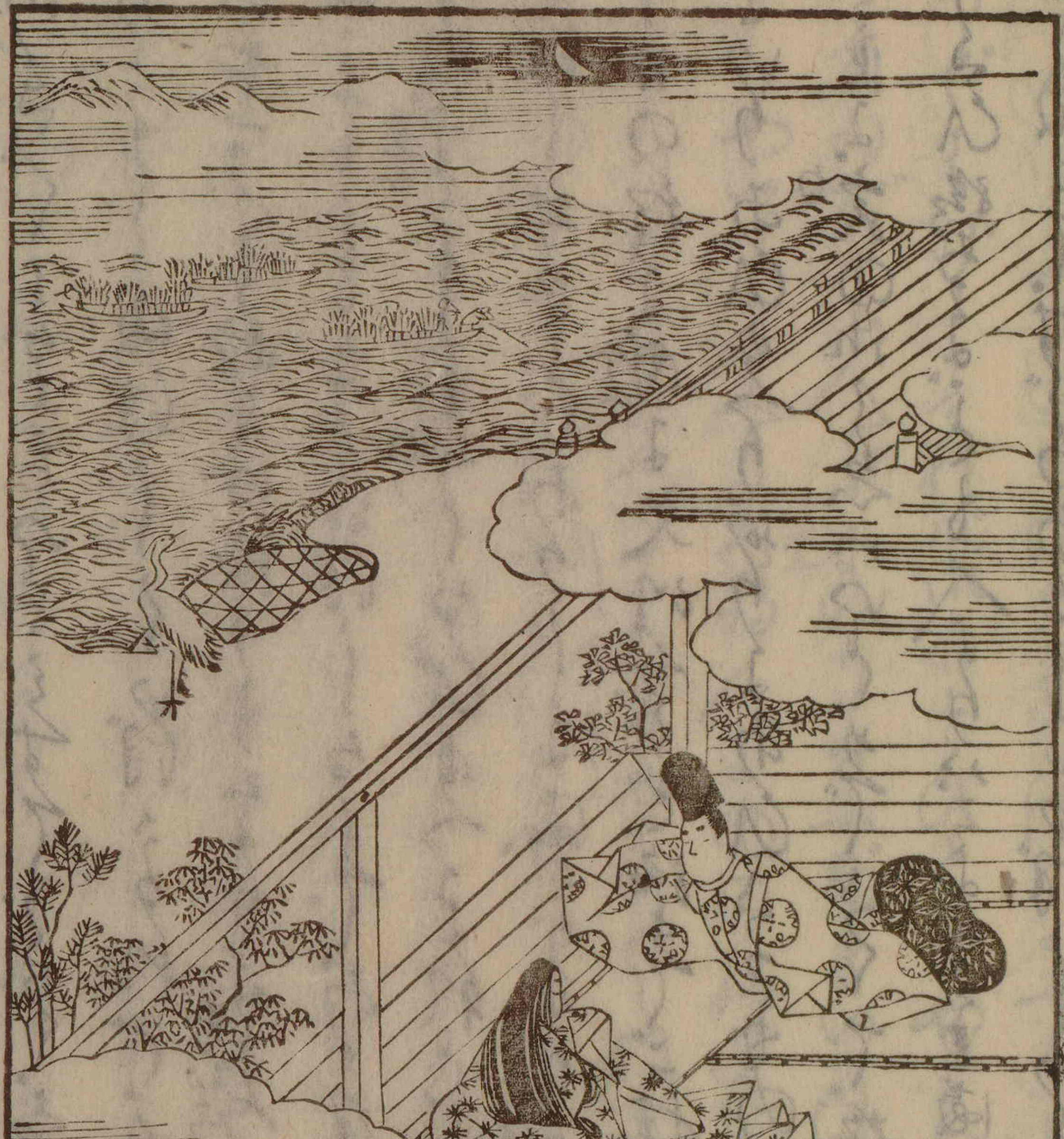
うしやもろこしはなごしれさ海のおもかげにおば
ゆれば。我なずもうしそこうられこやど。ごひつぎ
みそなたさぬ。（詞）此心だんのうこでおいたまりし
こその。どこまうれしうしが。人のいうまこそ
さこきくうこともあるず。しもさうくえすまん心
ざしてそいがうまでまいりくべきこれほど。たの
ありさ海こともあらぬ後まで。（地）つゝきちぎの（中）夕暮
に板に。すゝしいしちろく（詞ノ）もしてあずめいぶし結
へり。（詞）男いるもうしくくの衣ともおぼしめて。（浮）女いはま
まさそひころ身のうき代ちげきくうへて。うこ
まかれおもろし。（地）山のくるいうみすゑへぞそ。さじさ

すゐまことそうらはくぞんずれども、あやしかりいひと
おもしろきゆふべに、宇治橋のちかくところさ
ふねに、業つゝ舟の下ぐるもちびしかるとほり
まへはめおとれぬくとぞのこゝろあつめたる下されば、
悲しびをほれそのことの心ぞ今の心ち
きてひとゝめひと代まことしらんずる。
めづらしきおすみ衰おほうかべき祈ありまいそ悲
しき人まよひへられるもきはおかしずやうく
他の心おり、執あれも實き施の如くしきもこゝの乳
くこまきりしうつ心ちよき結に、念仏がきにつめたる
さるのうちは、まよはさるゝ洞どもすれば出さるを

蕉ノ
あづさみこ○結川く

蕉
宇治ちしのあづさちぢりは今ちもじを
あやがむくまま心さぐれいまこあひてんとの結

浮
うしまはる世の作あやうき宇治橋を揺
きぬまれとちう紙これめとや



甚ん
ゆきぐくましきをつくしすぐく。ありしまさ
ちとましく御ほしくおぼされど。人の批ひ
のやすからぬはつ夜さかみすり。こころやすきさ（京ごむえんとのみす）
夜までこそあるべくおぼしなして。おほまうり
なめく。（甚ん）いとらうもおこるびなつるれど。（浮ノ）（地れ）心ぐるしく
おぼし出ることく。おりしは夜さりそり。こさらぬの
十日の程は。（今上）酔は文川をもを給ひて。これ（白）家を（甚）芸能も
まいりあひあへり。おりはあひなるもののしんべ
どもは。（白）家のれうゐいとめでくて。橘がえなるで
うるひ給。あまごとも人よりは。こよなう夜さりなつる
れさ夜まで。すゞろなることおぼしいつくの

あはれ。つゝみかねけり。雲まはくりよかりこぞられ。ゆき路
あざましげしされば。れおそびさくやこめごの宮の（白）
れ夜ねずまじ人ぞまいりなふ。抱まいりなどして。
うちやすみのくりだち（莚）ね人は抱の給りんとて。すゞ
もしろく出たるは。雲やうくいまり。星の光（ひかり）
こがねくさゝ紙やうにおやすしとおぼゆる（莚くり）
まじひありさ夜まで誰かうしきこよひまやさうち
ずゞかくるもぞうつさこゝ紙うちずきひり
のこまへるもおやさしく衰なりみしそくる人ぞ夜
まてばとまれかげなりぞとしもそておれ。ゑやふ（白仏）（白）
ねつかやうまて。ゆべくろうぎくぞなうりのは、さつさ絶（莚ノ）

あめりうし・う（浮ノ）しく袖と秋のミやるこゝちし
つゝと・おほじこゝろあるも哀なり・さびしくもある
れ・かぎりあるもとめ（な人善志と云）ひとなさて・秋のくれ
まさうやひも・いりでかくべきぞでと・ねくらうおぼさ
家・（池）よめて雪のいとたかうつもりたるに・文（詩之）をそ
まうり給ひとて・れ（今上）まへ（白ノ）にまゐりあへる御うち・
ばぜいうじくさうりこゝろげなり・かれ（菫）宗もおちし
はまで・いみ二三（かうころ）まさりけらめよや・すゑしのび
まさう気色ようゐなげごとさゝまもりさうん
やうね・おてある男の（かくご）ゆんまちべくもそし給
（れ）門のれむてまそおくめことあしらぞ世のいさも

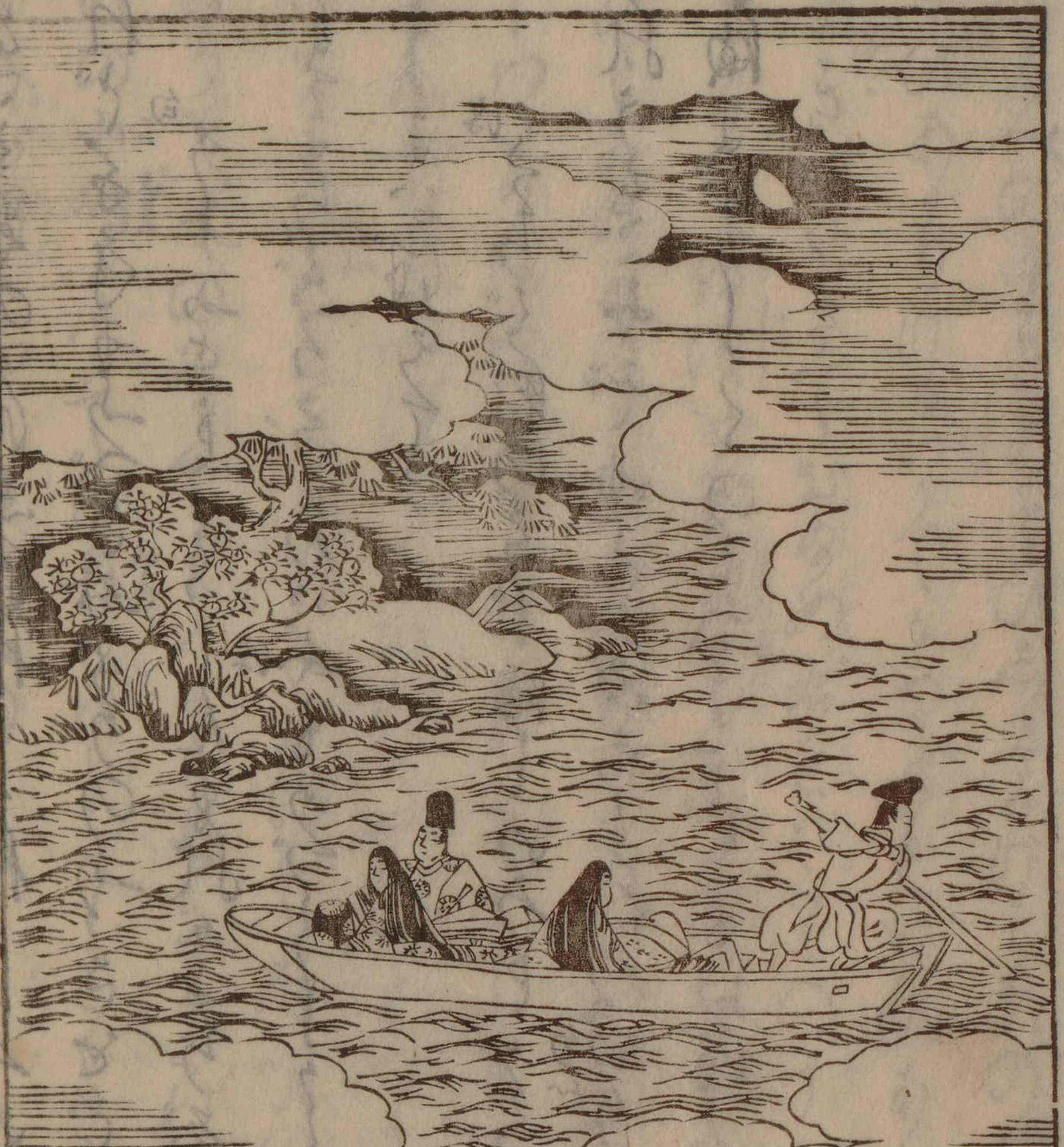
よくありけり。されども。あはやけしくとききこも。
されずぞおはすべき。なきうしてこそ。これ人
まうで語。白ゝやのれか紙すずれありとずのく
白ムされどもおすましてこれ語ずいふある心ちして。
表語を云之うかゝともさいげんとぞいふまのにおはし
はれたりし此人の茎御かしこさも。白ゆうぐおぞれるを
語られぞ。おさましうそぶりて。宗語へおうしまつり。
京まは夜まづりなしの御ありある雲山のくいる
またやありつきあり常夜よりも。つりあまきまれの
ほそこち紙つけかなはれば此色の人をおさわげり
おそろしう。つゞらしこともまへせふ。まつへの

内記（ないき）ハしのぶのか婦（せう）をあんけりけり・いゞ方もいづ方も・いとゞしかるべきつきさえすがら・いとつきぐさく・ひさしおげなゞしらふすゞしくも・おうしりくりり・（浮）うしろのは・（白ノ）おもしきんとおりつれど・くろ雪まはとゞうちとけけるなみ・袖かけて飢（うえ）をまきうそうしそり・おきましう衰と・（浮ん）恋もおもへり・飢（うえ）をいくまうきてめべきれ有様なりと・うけいふるしされど・（地）ことひつゝまゝあめべしぎひ（太さん）人をむるゝもたすなれど・おなじやうな・じつ（平の）しく（伝）おぼろつき人の心ざ度あ（奥ゟきこえ）ふちゝめなさくてらひて・（太き詞）ばゞくつるさにゝ・おなじこゝろまゝて

一 うくしかへといひてぐり。まろ（たをと給ひ）ともよい（白と）れそて
まつごころちの程よめれまへうれぞの香（か）の所（きう）よ
はなさも。までうつしひめべされど。彼（りの）人（堂）のれけりひま
浙（は）ぎそてあん。までまぎうりけり。菊（白ぶ）の程よ立りつり
此ぎん。も申こゝなべされど。ごくのひとあもいと
つましこま。時方（ときどき）よそばうしもあて。河よりさち
あう人の家（いへ）よおそておくしきんとりまへうりされど。さき
ざつく川りうしうりけり。菊ふる程どまよいわり。
ゆくうくようりいてさつふとやしさすごたいうま
あ陰とよまうし。家とも。いさ心あちうしされが。
わくさびれて。あさうつうちもワなうれ。あやし

わらべのゆきあそびしつゝけるひのやうにぞ。
かゝひあがりけりかびでうるとも（白）ひおへさせ給
なず。（浮ど）がきいつぶなそ出舟のあめ、なをいこのうちつらね
うぢまりて。待（ぢ）渡なぞそ（浮の懸ニ）まつ、ほとちゐなげなり
まれと、おけくれこつくすら、いさき舟まのりあて。
さしわたり給宿。（浮ん）ちゝうるん嶺（きう）よしも。ござれ（白よ）
さらんやうよ。心ぼそくおぼして。つやつきていづ
れさうもはや（白ん）らうらしとおほし。有明の月すゝ
のぼりて。水のおもてもくもりぬるまゝ。これあんうち
ざれの小嶋（こしま）とやで。此（字）舟しまげしとゞめてうかちゝ
るへがおほそやうくなる岩のかげにして。ぞれうつ

らくちうのげにげにいづれ白詞こゝへいらせられ
されど。手まくべきみぎりのふるさとのみて
白さしかきもくらんまれかさらずの小路の
さきまちぶりこゝろは。浮女もめづらしくらんこちの
やうにおぼえて
浮うちだれのうぢゆしいろもくらうじを
これうるさもぞゆく清されぬ。白んおりくる人の
海よ。おかしくのこちるすごしもおぼしめす



（時方がをぢの所と云く）かのきしはさしつきており給ふ（白ゐ）人々は（後と）いづくを
給ゑんかいのところぐるしければ（白ノ）いづくさあそく
たすけられつゝ入給ふ（地）べといとみぐるしく何
びとをかくもてさわぐらんと見たてま
つる。時方がをぢのいなばのかみなるがらうずる
さうにはかなうつくりたる家なりけり。まだいと
あらゝかなるに。あじろ屏風（びやうぶ）など。（白ノ）御らんじもし
らぬしつらひにて。風もことにさはらず。かきの
もとに雪むらきえつゝ。今もかきくもりふる。
日さし出て。軒（のき）のたるひのひかりあひたるに。（浮）人の御
かたちもまさる心ちす。（白）宮もところせきたの道どに。

かくかくあるべきほどなれれぞどもなすり・（浮）女もめざさ
すべきさや落てしりばほそやくるすぐしけ・さいと
おりしげなり・ひきけくわかすとも・あらちとけ
ようさまの後・ひとちづしくものばゆききまでこそのう
あつ（白）ひとまぎしむりひようらく（浮ノ）おもへど・もおぶれん
くるしますぶりしこそわざなつまちつきくぶりを
めづり・袖くちすそのほどまであ庭めしく・多く
まあまるとくきろ○こんよりもおかしう・こそあしくう・
（白ノ）つ○はこ落人とてもぐくまでうちとけうすぐく
あざけ・こなしひあきめをぜ・かうさへぞなす後めづく
かはかしうかばされけり・縁涙もいと若やすき

わつ人あまりか。ぶ（ほん）れさへかゝるをのこゝろたましみ身
よく安（浮）ぢハいつしかとやふ。家（白詞）もこれハ又こと我名
まうすれよりくちがゝめ給をふ（始ん）とめでこしとも
こゝろしらず。こゝの宿（やど）まうしてすまけるあれ。時方（ときかた）を
あるじいもそうしづきありけれど。この（白ノ）おうしまうすやり
戸さへぶそく寂しがほゝ（時方）みくろ。こゝひとまくめ
うしこもりて。袖がくりもけるを。つく（おはり）へもえをきぞ
おうしやもひかり。い（時方詞）とおそろしくうちひらく袖
いこまうり。案れちをさへさりてけしじうら。
けふみ人よすあるといひかりぐ（白ん）へめもとて心やすく
うきひとしはふ。み人（葉）へのもあしうまへつとけ

んまうで（浮ノ）てきしつらんかしとおぼしやりて。いみじくうらみ給ふ。二（薫ノ）の宮をいとやむごとなくてもちたてまつりたまへるありさまなどもかたり給ふ。（薫ノ衣ノ事などの語しるす）みゝとゞめ給ひし一ことは。（地）のたまひ出ぬぞにくきや。時方御てうづ御くだものなどとりつぎてまいる御（匂ノ）覧じて。（詞）いみじくかしづかるめる（時方との語也）まらうどのぬし。さてな見えそやと。いましめ給ふ。侍従色めかしきわかうどのこゝちに。をかしとおぼせて。これ大夫（時方）とぞ物語してくらしけり。ゆきのふりつもれるに。我（匂ノ）すむかたを見やり給へば霞（たえ）乃たえ〳〵は木末（こずゑ）ばかりみゆ。山はかゞみをかけたる

やうは。なうくと。夕日はかくやさうはゞうべ
まけうしうちのつりあきなど。おそれおゐう
さへてくくりぬふ
峯（白ね）の雪（ゆき）汀（みぎハ）のこほりふみわけて君にぞまど
婦路ハまどハず。こハたの里に馬ハあれど。おや
しきどりめし出て。まゐらひし給
（浮）ふりみだれみぎはにこほる雪よりもなかぞら
にてぞ我ハけぬべき。とうさけちさう。（白）ば浮覚を
とゞめ給。げ（浮ん）すくくもりきて げつくれさ。さうづし
ろそしひきやうどけ。（池）さゝでざるこひあつめ陰を。
いよくあはれはいつゞじど。人の心はもあらわんや。

ゆうしなふこのとくしきいゑんうくちゃし。ぬれ（匂）あのいま二日とさゞりうまへれば。ころのどうとすまかまゝまゐるこゝろは哀（あはれ）とのこゝろく。あはしゝまあらか。ゐをとかまかるはれのつのひまどかうして。かぞかどうそしまかうかり。ふ（浮）いこゝかれうかとすゑしゝけらきそ。こゝろぬは紅梅（こうばいは）のとり出ほど。おかひ（い）しくまうへておまへり。猶猶もおやきさかぶるきうしゆさ。おぶやこぶられぶ。その忠誠きりのそ。思は（は）れをあそ。けれてうげまつきも猶。姫（女一宮）まこれ（浮と）をそてまつるきうしぶぶいろどいきものは志猶てんつしやんごとおもうくもの人（女三宮）あはれどうぞりのき歳まうつい

きくやとこゝろ給ふるにおもふまで遊（わた）びさうかれは

らし給ふ志のびておもひくしてれこそ候ぬを

のおふぞの御ぼしくみれ人まことうげとふらべき

ことぞせちうをおへば、ひとはりあさくとそして、

いふへもやらず、涙（なみだ）さへおつる氣色（けしき）、更（さら）にまめれなへは

ごはおもひつゝめなめりとも、世のうきおぼさる、

「惘てもなきてもよろづの給ありて、哀かくみて

かへり給、御のいづきあふ、ひとしくおぼすめる人とし

りうハよもあしくはこゝより給ふやさのくきまへだ、

げなと思ひてうちかづきておはする、ひさしうしげ

あり、客をつまどをあけそいれて、まゐる、やがて是（これ）

とり別（これ）て其縁もおろずいろじとおぼさう。くやうの
人さは。扨二条院まておこしますす。いとちやましう
しおて。まれおどろしもこゝろしめさず。同なへて
あはれやを縁れなしきうきうち。ちうちうもいびく
まかもおもかげしあげくは。いとゞまれさしうそ。
此文ぞまこと夜のよいえうき縁もず。うしこまもし。（宗治）かれ
我しきめれとく。娘（ひとめ）のみうじ所よむきうけう。（宗治）く人う
こまなくれが。心（浮）やすくまえてず。（白ノ文と）（浮母ノ）うくあやまきすまね
そぶくれ要（基）のまて古し縁うん夜をゆるしくまよ
川しまて。毎れもあまくまくろま。志のびうう夜
今ぞしまも。ち（基ノ）うくひとしてんこう浮おぼしあうり

なれば。つとめやすくられうるべきことなりぞ。
やさしく人もとめ。けしきれめやすさながらむ人ぞ
さらをぬふ紙（浮心）ころまでもされこそはあるべきことをよ
もじめかり約ワれとはむすぼしおむすぼちする
（句）人のれこもをもひ出すまゝ。恨（うら）み消し夜。の結し
こと死。面（おも）うけまつやそゝひて。いさくかまどろめば。夢（ゆめ）る
うし結つて。いとゞうきそてわかまゝでおぼゆ。おもんかり
やまずで。目にあはくちかは。（句心）いとゞ出ちおぼしそて。
けうちくおぼされなれば。おいやのかうしは床もと絶ね
まぞとおぼすもかくじけもし。うきとぬそぞも
うきこゝのみとぬ

句

ながめやるそなたの雲もみえぬまで空さへ

くるゝころのわびしさ。筆にまかせてかきつゞり

おくりしもどるありがおうしげなり。こゝろ（泣心）つく

としくるずべあしぬワきゝ心ちは。ひとかろ心を

思ひも寄らぬべくれど。さだめかちぎり給し

ことも。さすがよられは（業と云）我と抱かうびとぐしのみぞ

さきあふども。世中をさりよしづめあられがまや。かろ

まきこと字つけて。さうさこ給ちん世をは。いつでか

あらんばいりしかとおもひまゐらせずま。

らうづゞきるしそいまでワづらされめ。（命と云）命

心の内しのみ人ぞしおぶなきれ心の秋とのこと

さくしくば。かゝる程こそあらめ。さくうりなげくも
京よりくしすへたまひ。あづまへてもおぼしめす
まんよつけてハ。それう（中）へのおばさんこと。よろづ
くれなき世なりければ。おやしりし夕ぐれの
さうへどうりよぶなり。かゝる君（ごね）出給めりまして。我（とが）あり
さ御のさもうくもあらんなど。給しめやうハあり
なんやとさひさぶらふ。我心もこらずありて。彼（それ）（慧）人へは
うとまれてそまつらん。なにいふべしとさひ
さぶらふありしも。それ殿（慧）より（白ノ文）れ使（つかひ）あり。これうれと
さりもつともこそあれば。なる我こと。おぼうりの我
さつくすへのへれば。侍従（ぢゞう）上（うえ）をもあそきて。なる我

淨心白二
うつりよなりちかいもめやうまそいづくかりぞ

し・業のはかりを・あがみひおりしまゝじとこうし

かど・これ白ノ有る海もいゝじりかゝぢうちこぞれ

めつるあいりよ・鬼ちうが・ざぐりのはおもひさこ

あく・えりくそおもし・ごほいのあまゝいりて・

つまらぞまりてんといふ・なとうまろめくの

は心のかどや・業のはありさ海は・まさり鬼人さぞれ

かはあんかうちちかばさうず・はころざくげらひ

ちがまおが作これはとい・ゆとこぐりしこりざされ・

いかいちゝせ鬼ちんとすゝんとかうりしてくる

ふ心ひとつにおもひしよりは・鬼ごともならり

出こそまさり・浪（主ノ文）のゆかこまは・（文句）さちなずらへ目代になるらん
さし時はそれよりも・おどろかし給もんこそ・さふ
さ夜なるしめ・どうなるやかなずげ・うしがさる
（主）水まさるまちの星びといふなんわれぬなず
めまうさくすらう・のよりも・さひやうこさへゆう
こし夜さりてなんとし・まうさまさまそて・ぶし
なり・啼てもこ夜なるおもしげつれば・うさぶ夜
ゆへくまくこゑ・（白）さめまさいとし（文句ノ文）御月なりそ・ちいさく
むすびなしのなる・さ夜ゞおもし・まづかれな人
こぬ朗じなくこさも・（浮詞）乱なるこゑさもまじと。
まぢしひて・あなしひる

浮白ノ渡し
星の名残はましれがやましろみうぢの
わたりぞいとゞすさまじき・家（白）のりさあくりし[illegible]
はぐ（ほん）こてあられなり・あずらへてあまじにさゝと
ぞとゞ流うず流きさひるをじ・ほうゝゝこ
ありてやゝあるんまゞばし哀はおぼゆべし
ほ白ノの渡し
うきいくしられきぬ峯（みね）のあま雲（ぐも）はるゝそ
世をはつる身ともあるさがや・おもじはかがと見えたる候
白ん
こやいかにとあられのみぎりとも哀しやゝ
浮ノ
らんとしてやるも・もれきひてあゝさんさ海
菩ん
のこゝ・おもかげのみ・まん人べおのどうるみん結
りく・哀いよゝあさましくとひやりてぐと見えし

つれ〴〵と頃よろ毎のはやまるゞかそてさへ
いそごとき歯さりて。とおり紙。うち（芝ノ）もあまりずみえ
ますふ。家ま抱紙なるごとくしおての一つでよ。ち（芝门）あし
こまやおばさんとつましなすゞ。ざすゞるとしへ
ぬる人の待り紙。おやまきこと取ますてさそで。らず
く抱さふるかり心ぐるしきまら。うしよびよせてさ
さ待う。むりしりりことやう（おかせんとくる）なる心だく人待しあすて
世中をすべて例（れい）のひとするしてゑすゞしてんと
ゐ待しそぞくゑふてまつりはつけて。びらふかるも
すそぐりくされば。おり（淫と）と人まましてきざりし。人の
うへさへ心ぐるしうつゑゑめべきさゑらしてるゞ。

きゝしの人ぞ。いかなる（女二門）ときは心をく物ともしらぬ
といゝ給。うち（慧門）まちどおもしざ海よこゝしめさ
すりひとやゆうんとく。世の人の物いひぞやとおぢさ
あくやしうらずゆりや。されどそれいさゞうりの
うずまゞゆりまじちどあしのふ。いろ（慧ん）りくら
取さつゝ（ほど）てんとあばしうま。かうれずあり
たりあど。茶（ちや）やうまいひちすんやあいんあどくうし
されば。いと母てさうじつゝすべこさくあど。人しも
とそあれ。これ内記（ないき）（内記が妻ノおやと云んさ）がさうへのあや。大蔵（おほくら）の大史（しゆふ）ある
あれなむつましく心やすきまくの給つけゝり
されば。きこつぶて。自こやまはかくれあくきこへそう。

絵師どもなども。れ随身（ずいぢん）どもあれ中におかむつ
まへさきれびとあどさ絵そうて。さすがるわざとあん
きさせ絵とはすま。いとゞ（白ん）おぼしきさゞて。わかれ
めれとれ。と絵さずらうのめまてさぶろ家。下つる
まあら絵いとものびさる人さゞうくいさんと。
うさゝひ絵られば。いく（ずつやうん）あら人まうはとあまへど。だ
ぶをとおぼしさるま。さくゞけあされば。さゝくゞと
まさくらう。られ（白ん）させまうけめてずまくれさろのどめ
おすふ。られ（三月ハ）月のつゞまりがくまさぶあへられば。やが
てされ日わるさんとおぼしうまふ。（今ぼへ）りくあんと
さふ。ゆめくといひやうま絵つゝ。（溶ノ）おりしまさんこと

ほとりちかくあつ。うぢよりもらくまゝ（京とある）。めのとゝいとう
しかれどもうるべきよしを（たを）こゝも。大将殿（薫）は
卯月の十日となんさだめ給へりける。さそふ（浮ん）の
あらばとは。おもはず。いとあやしく。いかになすべき
身にかあらんと。うきこゝちのみすれば。母の御
もとにしばしわたりて。思ひめぐらすほどあらんと
おぼせど。少將（常陸聟）のめ子うむべき程ちかくなりぬとて。
ず法（ずほう）ど經（きやう）など。ひまなくさはげば。石山にもえいでた
つまじ。はゝ（浮母）ぞこち（宇治へつく）わたりぬる。めのと（めのと同）出きて。殿（薫）よ
り人〴〵のさうぞくなども。こまかにおぼしやりてなん。
いかできよげに。なにごともと思ふ給へれど。まゝがこゝろ

ひとつは。おやしくのうへで玉仏んくしなど。
いひさゝくが心ちよげなるを（ほん）みては。こ本（ほん）みハ
ゑしうぬゝとくじまれ生さそ。ひとりくへなうば。
されもくいうるちゑん。おやすくはの結人（白）とく。
やへうう山まこうまろたぐなしずうづをて。我も人も
いろづるなりめぐし。おなは心やすくうくれなん
ことをちへと。なふもののへぶといふるきんと心ち
あしくそうしなへり。（母詞）なずりがくれいなうず。いく
おみえやきのへるとおどろきは結。（めみえと詞）見ぬおやさくのゑ
なん。ぞうるきしまれもこうしめず。ちやましげは
きさせなふといへば。（母詞）おやしとうそれ。我のけなど

すやあんといふ（懐妊）みすみれこうちぞと云へど、石山も
ちまり浴はこゝろしとゝめ、（浮心）うかゝいそれぞ
かすめなり、うれて、いと月あし、有明の色を
さひ出る涙のいとゞめぐるこさは、いと久しくぬ
心られどおもふ、母君むかし物語などしておほくの
（弁ノ）あまゞ君よびそで、ごひめ（弁泊）君の（大）れおやさ海、こゝろ
かくおりして、ざるべきこともあはしいれこうし
相はめるこすくきていり浴すしこゝとなどめてふ。
（大ノ）おりしまゝ海しかば、家の（中）人などのやうまゝさて
うよひおそ、ころばそかりし流有さ海どもみいと
こなたさきれさいをいまぞ御くましぐとつてまも。

我（母ん）姫（ひとめ）はいとへくはおもふやうなるすくせなれおそし
なぞぶとらじなをあどそびいゞで世（詞）にてある
これ迄（浮）つけていゞもれをのこぶれしろこその。
すゞしうちゆうびでかくそいろ結めべく覚れど。
ころまいりくろうてぐるしずもどこさしては
えむちゆうじゞぶかさいめんのおりくろむ
うしのこともこゝろのどろまぐさてしうけさ母そう
またしそれどもあぢぐくつるあゆ（新詞）く思さ身とのこと
あへしうましのばご面やうるこえそてまりで
男さぎんも何かそつましつてすゞしゐつをきを。
きちすてはらしぬ結あばゞいとこゝろばそくあん

ゆべされど。かゝれすまねど。こゝろもとなくのこく
さそまつなをざれしくるしゆべかめかれ。よるまとく
じ。なほもくしくおぼしますべかめる殿（薫）もんなれ
ありさまにてかくゐることさしるしも。おぼろけ
ならじとさてなをさゆのしかるところともやは
ゆかなげにいふ。後（母詞）は、さてものど。かゞはかくおぼし
ちあすれぬさまのたまひつけても。さぞれしらべを
あんなる事ゆゝしかめの人（中）のこともおぼけなく。おぼされは
おぼしたりとも。つましきこと、やどのをのづから
ゆしうば。おほう見るところきこえさせんありとも。おなげき
ゆてといふ。尼（あま）君おはしめて（弁詞白）、げにこのひとときこえしき

まで。色（いろ）はかりしますなれば。心ざしをあはれみかさへ。
さふらひ（か）くげなかん。あほうくいとめでたされ
有さ海あれど。さうすぢのことまで。（中）ぶへのあめしと（浮と）
あばさんあるむりうちきと。さうかむすめれうり
行ことりすまきりや。（浮ん）まして君は守すての寿り。
（世乃）あれむくつけや。みんなくの流（上）焔（うすの）とあらそそまつり
ます人家ひ（蓮）となれど。よそくまてあしくまよくも
あはんいうだちもんとく。あ侶けゐく。さまうし侍。
（浮ノ白あだく）よろしめこともひさ出めくくまし。くばずべて見
まはりあしくいふどしとやらて。ひとよぶまらはそて
まうざう海しあるどいひかうすことくゞもの。（浮ん）いやくぐ

こゝろづからくつづれぬるをわがみとうしなひてげにや。
つかまこさてまくこゝとくハはさるんとせけくるまゝ。
（母ん）こし水のをとゝれおそろしげはひゞきそゆくを。（詞）く
らぬあずれもありし。ぞよまくずあしまし給ふる。
年月をすぐし給ひし。哀とおぼしめすべこざるな
ちんおぼし。あんさりがたいひおくり。む（許詞）しより
比河のちやくおそろしさといひてざいらうら
わうし寺（ゑう）がむ（縁）まづみわうはさ恩しもつきて（おち）
入侍るけづすべていづゞはあるへおほうかある
侍りと。人ゞもいひあへり。さ（浮ん）はそも銭ありゆく
ゑもさしずありあげ。されまくあへなくいふじゝ

きざしこそち絡さめ。おぢしへてへワへようこさ
こともあくんい。つろそれまれむのこんとすつと
むく多ま候。（自水くず）さり新もあつまじう。ささやくり
よろげむちあさろれど。うちくへしいとろす。（母）おやの
よろげまらひいまありさ海ぞ。（浮ノ）〇ろやうまて门く
げくとらひこぶろ。（母詞）おやましげまてやをあすへ多を。
めれとしまもいひて。さろべされ（ぬの）祁了まあどをさぜあへ。
まうりりくへあどもすべこさやうあどいず。（浮ん）元こし
げずま。こそぞしき海のしげまろぼぐくまさこでまろず
まいひさぐ。（母詞）ひとずくあしめり。よくさあべくしん
かくりをとゞ〇て。今まうりハやゞめこまへ。やむじこ

なきれなりしひがうじこそてなまじともおいら
かにおぼさるべき御中（女二と浮とる）となりぬるをあくなとぞ。
まづりしきこともありぬべし。ぐしひそめて
さなころしおすへなど。ざひいとゞめことなすくいひ
なきぞ。ぐしこるはひづしひ給へも。おぼたるし
とぞくへら代。（浮ム）いと物おもはしくまゞこなぱそ
されば。まするあひてもこそとしらくもなれとぞへば。
（詞）心ちのあしく侍らまし。らそまつゝめかいとおぼ
つかなくおぼし侍らと。さぞしもまいりこ度ほさく
ふそとまつふ。（母詞）さまんな侍れど。こゝもいと物さは
がしく侍り。ごゑへぐもいなすさことなぞえしや

あぐをづくちづ作ればなん。ぶけみれうまうけ
ろひのみでも志のびていまつりさるんをるとく
しきみの實ばかりめぐらしそいとおしく
作れあずか村あずさつの絵。飯（蓋）の御かたはふまあり。
（文字）なやよしとききてかりしをいうどとさみくひ絵
へりごろづつうや恋作りを。げりなさきさりおほくて
なん。これほどのくらしがらさしくて。中とくうし
なぜあり。家（白）は鳴（文字）日の流入りもなかりしを。いうき
おぼしさづよみぞ（ぶ）武代なるびんかうくもうしろ
めつくなん。いなぜほれまさりてなず絶作りなすび。
これはおほくうきのつくり。每かりし回之竹ひさうし

れ彼どもぞ、うちまもりけり。変（差）の御随身（ずいじん）。かれお　廿

う櫛ケ部まで（卯杷ケるゑ道定）。はべらむのさあれど。まうといふはま（随力詞）

しまろてはさびくまいるぞとやしりく（白伎詞）

まことふべき人のもとゐ。までろちかひふ。

（随力詞）つるうの人まや。それちかきもさうしとゝみす。

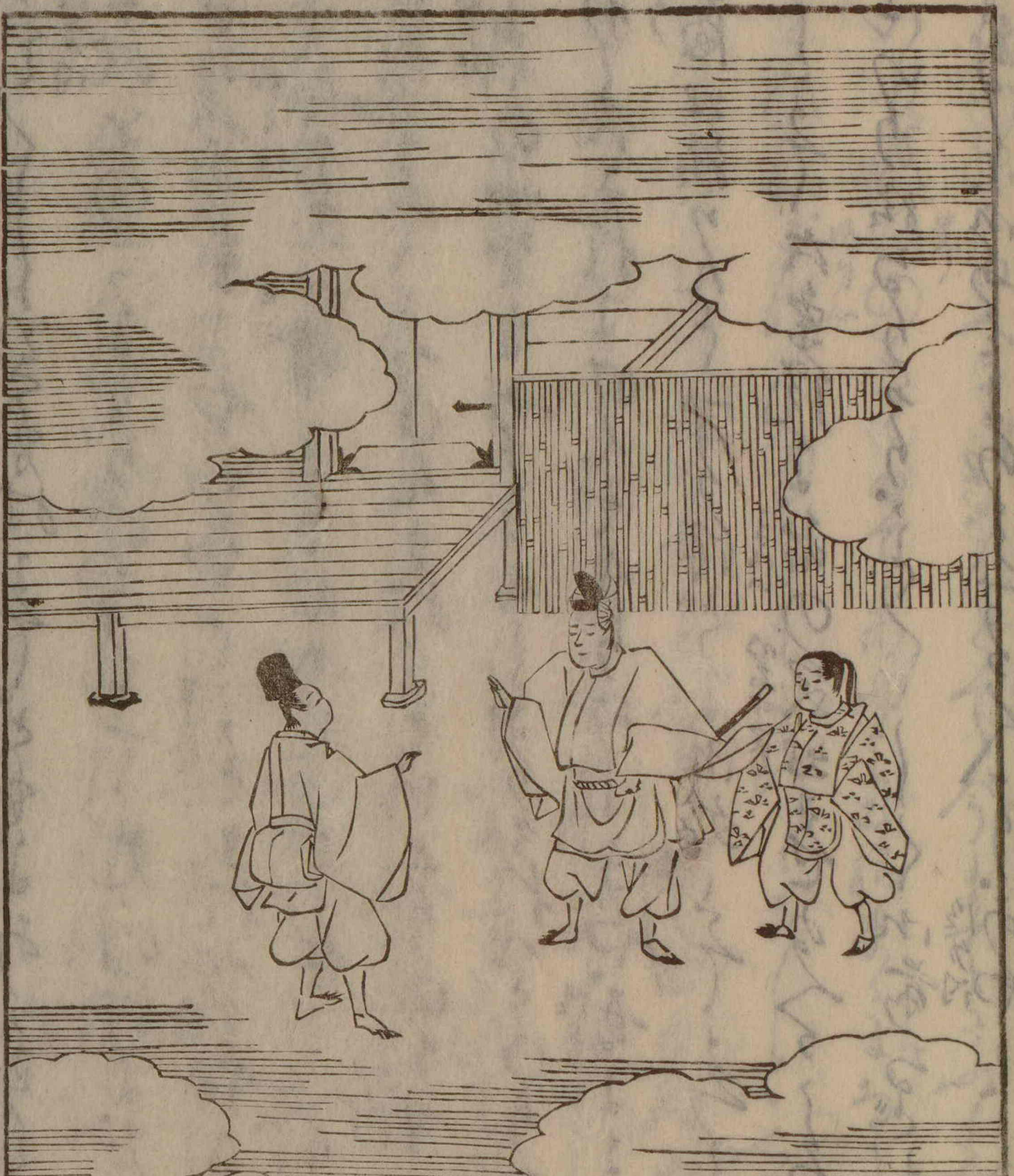
それがしあるまゐらしとられ。もれぐ。わたぞといふ

（白役詞）瑜とくいはひうりの妃の御文。（初雲捻ち時労）女房（ねうばう）ありてまゐりまはせ

まふとりくべ。（随力ム）ござひてあやしきやつべら

まてきぞめいりんもごとやうあるべきれどもの

とのまいりめ



（菫ノ経返方）（くせ）くしこまれてども・あらこく候・
（返方詞）これとのうるさりげすくて先いけよだ湯つぼん
さいかの家にやいかとこゝを（三ノ八二）きれば・（白）じやままいり
て・（三ノ八詞）魂のか補（せう）こちんれ文はらせさんべり流ると
いふ・（地）まつでらづ○んまれとも・どとりのドすはらず・
（白ノ経）こくの心をもゆうきつざりれば・と○りの人すこ
あうはされまけんぞらちあしらや・（返方）御のままいりて・
（菫ノ）尚生給れんとすらほどらまれ文らそしまつゝす・（菫）ちり紙
しまて六条院は・（ごさうい）給の（右中将）文出さめへうこうるあれば・
まいり給ありだりごくしくしくれ前はるども一向まゐる
はるし・れふこまいらする人あり・（返方詞）あやしきこゝの

給つゞこめんきゞめんとて今までさつひつこと

いふ紙は（莚ノ）のとておそあゆみ出給まくよろまでぞと

とひ給ふされ（隠方仏）人のきさんもいましとせうし

こまりてとう飯（莚ん）もとりこまりおて出かめ文（略名甲斐）れ井

あるずちやましげまおりすとて安うちもられ条り

ぬへり上達アうずおほくまいりつゞひてさはうし

されどごとあらこともおつしまらず。披内（あれなふさい）記も改官（じやうぐゑん）

あればとくわてぞうわうべ此め（注文）つこまとてまつり

と。安（白）大りん亦まおりしましてぎやばまめしらもて

そり給紙大将れ前（ごぜん）のくしより出給ぞばめまうこと

さしめてきちまもおぼすべかめる文の氣色ゆかしさ

おりしさま、えどまりあまくり、ひ（泊）きあけてこのふ。
むつ（気高）のうすやうは、ご雨やうきさうべしところを。
かゝる心つれてどころはもむきぬなるま、（汐）おやでも
うちてど雨はおもすれば、これ君（茎）いざしゝりむ
語そて、おそでつで語とうち志つゞきそ、（泊と）おどろうい
うそまつり語、ひきうしあへつまぞ、（汐）おそでさうし
のぞきあへつ、（汐）おぞろそてれひ（礼拳ノ神之）もさし語、（夕）番もついね
ゐて、まそで待めべし、れいのれじやけの久ちく
おこせさ雨までぞりつよ風おそろしきげちりや、
やまれ雉さ（さ）まてでつまさしよつもしきんといそ
ぐーげまて立あめ、夜あけてこおむあめ、（汐）おそでし

ミやとさ紀よそてなりあて・おまへの御子どもあれ・
上達部あまた引つゞけておもきまつりごとの
殿かさくわんて出かふ・随身（ずいじん）気色（けしき）だちつゝおやまと
あぼしくれバごぜんなどおりて・やとますほどなり・
ずいじんめしよせ・声（詞）ははなうとはあまるぞくらひ
なゝけりさうちるま・出雲（いづも）のごんのかみ・時方（ときかた）の朝臣（あそん）の
ものする仰との御れ・むしくさうれうすやうにて・様ま
つけゝる文ざらしのつまどまよりて・あづまらせ
仰りつゞきのへつけて・まうくとひ給つれバこと
さゞひつ・宮ごとのやうなり給つ紙いろなりしを
ぞとてひきりべしてこれを給つれバ・無（白）んてまうり

まいり給て。式部が輔（しきぶのせう）ちうざいの所望にさん。その
めしるは、いさゝせ給けつとゝ申す。蒜（蒜ん）あやしく覚えて
羽 その遣るすはいりやうして、いぶしゆぞで。語（隔カ）られ
いとゞへずごとくかりいぶし給けるが。下べのト
給つるは。おもきふうしの。いとこまかるとてあまん
ト給つとゝきゝも。あげ（蒜ん）しあまするは。ぬうふこと
ゐるし。（さうまで）でゝをつんと。かゞくしと あげをさぶ。
人ぐちられば、くそしくものゝ給ずうちすべく 礼
いとかそろしき。ら歯（白）あうくおひすう家あるや。い
ありけんつゐでは。さるひとおりくゝうまのひろん。
いぶでいふひより給けん。ぬ中びくかあくりつゝて

かやうのすぢのまぎれは。えしもあらじとむげに
こそおされたれ。さても志めあくりよこそ。ざう
すきごとをもの給つめむしよりへぞてあすて。
おやしきまでさうべし。おそありきてまうり
しかうしもぞしろめうくおぼしよるべしやと
ちふまいと心づきなし。さいの流ぐ中の流ことをい
うぐくとうずぐしろすぐ深ハ。ワがうころのとも
さはこまちなりなり。さうかそれもいまちしめて。
さゆあしうるべきほどもあらず。またよろまき恩
さよりまもよれるを。ぐ心のうちのさゆあんして
ワざくあまんのくあくましうるべきまよう。ぞひたぐるま

そこなはざるべければ。（白ノ）ばうくあやまりくしめて。
例よりも人しげきまぎれまうでりかくとうさ
やつれ給つくんおりやそあまけれ。いとそうるう
けさうのこゝちあるりや。おやしくて。（白ノ）ちりし形らづる◯
られぬ日もありとく覚しらうし。さやうのことよ
おぼしくづれてぞこそとあくあや給あるべし。
むりしをおぼし出るなも。えおほきざりしほどみ
るげさいうとりくあはしげありさうしとうりくど
おほよそ女の（侍）いらへ地おもひうら陰ありしもかる
うら心えそめてはよろげおぼしおハすあまいと
うしろげなき地かく人の心をもあかられし。らうえげ

おほよるなりと良こしらゑず。うちめきあるくハ
さひらく人ぞうし。これ（白）やのれくまでハ。うとうさ（浮と白と一具とく）
あさひあかりと。おきひもゆづりいべくの心ちし
まへど。やむごとなくせそめし人なまうづこそおもあ
る紙さりまれまでときさらん。いまはとてこざらん
もく。恋しかるべしと。人わろく色く心のうらる
おぼしく。つれすゞ雨じくむなりてずてときさらば
なるまずされ家まびらり給てん。人のくゐ後のいと
をしきをまことなきずり給まじ。さやうりおほす
人しそ。一品の家の御ゆうす。二三人まいり給ふか（浮ノ句ノ方へ）
れ。さてまちらせんさきさきん。いとおしくなど

なをすてがたくおぼしきこゝまでほしくて。御ゆるしけり

将軍の御随身（ずいじん）めして。御身づから人まへめしよせ

さり。（蓋詞）こゝろぎゝ（内記）の饗宴（あえん）は。花ちるの（蓋ノ家司）ぶり家よやうふ。

（隠ガ詞）さらんゆうとや須。（蓋詞）うちへいつるやこれありけん

とのこはやかん。かすりをてねらう人なれば。道定か

おもひくらんしとうちしめすてひとり

さうでとまられぬとありとの語りこまりて。（隠ガ）

（隠力ん　式ア御猶之）きうがつるこれ（蓋）夜の御たよおかつうしけるす

とめしもさあらすれど。地おもれてえりおず。（蓋　逆ん）ことも

ますまゝしくはさてきぞともばゞ。とくもせ

随身。（空治）うしろは御使の御よりさげまつりても

凡（ほん）ちやうしきむぐあすり。慧文 しばらくぞの給へ
慧 あすこにゆりしろともず末の松まつらんと
のこさひけりれ。人ことはりを給かとありつれ。浄心 いかと
あやしとやみすまじきもやるぐりぬれ。ば返すを心
えがほこきこえんも。うき川しましくひがこと
まそあらんもあやしければ。なみいまそのやう
かうして。所さゞへのやまこえ給ればあるん。おやもく
あすやあしくそおもはずくもりきさへてぞまつ
慧心 かき川。こゝめてさすずゝいくもおもうすれ。かけて
こゝまでこめ心がへしよ。ゆくさまれ給も。地 こそしとハ
えあぼしそめちあり。慧 まほなすすみどもはのあし

まへなしこゝろとか（浮ん）しこゝろはいとゞ思ひそふ。つゆも
我身はなしらず。おやしくまりぬべきさるありと
いとゞさふとこゝろは。我とこそ、どの（芸 たゞ詞）れふこゝろ。お
どて悲しこそまつしきめへこぞ。ゆきもくいこ
給ふるゝ地をとつへだび（浮詞）ゞとしのあつやまこゝし
つれはおもふべかりそ、その給。おや（芸 地）しとこかれば。
こゝらまてあけてこけつぬかり。ふこずのうこんか
さ段やなご何とはいゝであなやゝおもし。（わ芸詞）ふこしこさ
ゆるすぜこゝそ給れ。（芸）段は地の気色ゆゝんへしるか
べしといへず。（浮ん）おもそざとあこゝて地もの給ます
文こゝんとのあなたがこゝぢ段まてうれれなしこさ

古人のいひしことばこそとおもふに、これ（ク）
さりぞやごかうひ語りすゞれ人のゞせちん
こともいらじくもずし。我こゝろまでかくそめしと
あすゞ○けふも心うさすくきうれど。ちりてはかなき。
侍従とかたりして。太と（うえ詞）が（ク）おほの○の（常陸国にありけるときの）ひちすてひと
かくりゝ侍しとほどしまつけてじらずくぞ
うしこれもかれもさらしぬこゝろざしまで。おもひ
まどひて侍しほどなる。女ハ今のうゝまは雨すらし心
よそもまそりてぞ侍ける。さるは○こそてづねり
いまそれをばこゝろしてしぞりし。さて我もすゞ侍
らずありすぎ。国（くに）をもいらじ。さあくしつゝまれ独（ひとう）

うしなひつ。すこしはあやまちあるもおほからうずあれど、かゝるあやまちしつるものをいふぞつゝきんとて、国のうちどもをひきられぬ。すべて女のさいばちきぞでとて、さちのうちまでもたいめぐらざりしかば、あづまの人はおりて、もおくらもい後にはさかゆべき御ゆづりなくてこそあれ。ゆゝしきついでのやうに侍れども、上も下もうつろすぢのまことは、おぼしくらぶることうらめしきわざなり。命までは、おしまずとも、人の身のほど〳〵につけて侍りしにあり。さあるにまさるくちをしさもはあるさ人の身にはたえがたく侍りしに、こゝにおぼしめし

めそよ家もれろぶし由さりてまあやりけり
ぶる男さ世給りぶぞあすらむぶ由まゝうびうとめて。
まれかりくるげせ給ぞやをかとろへさせ給も
いとやくあしざりうへ（伴）の御おもひいろづき男
さま給ひ姫ぎまぐら見れいそぶまころをいれて。
まどひありて侍るつけてもぞれよりたるゝまゝ男
さとのみゆるこそいとゞくるしくいとをし
それといふは。（伊豫守）いまひとりうくてありそうしなまで
おかしさま給ぞあるまじきもめすくさまでこそあらめ。
さびれ心のうちはすこしおぼしちびんくを。
きうべうさるおぼしきをめへ（白ゝ）いでやいとゞうらげ

なくばかりは物気色ありしは、人のくおぼし
いそぐめりしかくはも此心もよらず。さぶらしくえく
ろへても世のまゝにせ給はんに、よろしきひとゝぞ。
ちひえ給ふと、家（白）をいらじくめでこそあうころ
あれば、ひとゝちらしつ。ふうきや（大を河）大をいとてもかく
てもゝどなくすゞきさせの人とゞらつを石山たがらま
願（ぐわん）をなんそ給ふこれあお（苔）便のれ（こ）きつの人ごと
いふあれはいらじこさがうつのものどもまで、ひとつい
此皇はうちて給ふあり。大くゝ此山ちかうやまとま。
孫の鈍（まう）に給ふ所の人なん、これこそ縁りといふ
ものゝゆかりけつ給ふなる、それげむこの右（う）を（えん）の

ちまとにふみなども、よくしてぞ、ようげのことは
きこえておほせをしれるあり。よきひとも此れなす
どちハ情（なさけ）なきことゝおほせず。とさし、ものゝ心
えぬね中人どものまね人まで、かぎりぐさふく
へど、そのガぎんまおくりて、いさゝかなすこともあ
らそじるど。おやまちもし得たるん。ありしより
れありこそハ、いとゝそしくつけくおもへくれしが
家（白）ハよりあるへつかまつりませぬとそ。此ともの人もみて
おりしまゝずや、つれてのこおりしますなぞうあれく
こうけそてまつりそうんハ、いといとしじくるんと
いひけども得。愁（じん）あなき我さ家（白）まころつかさ成り

ふとこそば人ゞのいふやうにうつくしく。かうら
まほいづれもおとらず。く筆のやうはあさはれて
いろじくいられの代ゞあだらくしまじうりかへば。
されこゝろて。手ごろはあるめる人なも今やとも
てちあわんとおもめはよりこそ。かくいふゞとまれ
もおもぶられば。ようしめことも出きさんけと。
つゞくとおもるらうぬといふであれどや。よぶりば
らろうりけりあれ。くうきことおつくしくは。
下そあどの中までも。おほくやにおほうとてうら
がし婦しまへば。（本ニ）うくあおぼしめしてやすかる
ちりうきとてこそきくしきとれ。堂しめべし

ましともこゝぬげすはのこのどうすこしこせ（注人）
ふをどゑれゆとの後ゆうじく心はられをさゝせ
め人ばりとあやしくあんらそてまつさ心より
うろくざりはられくふらざれさゝくはめれさ
をのが心をやうてあれそめりとちすねさりうは
よりつるなどのあやすさをよびらりつがる（みと詞）
ひとゆめんぜよおやぞくてのこかゝせあへるも
もれくけるどのぎまくげ男さんとすうはこそ
とるげく藪（筵）よりいはれありし女をすぐるの給は
で見げん人ぬしをどもてうどもりといふなれぞさゝら
げはつとおもうくきてふつくるさ給しうる

おそれのこゑれ。さすがなりし。さありか。女房まもの
うりやさんといふをされば。右をしもあひたり。
舞きめし給しかば、けさとみり給て、などあんまり
かへり給つる。難事ども聞えつるついでま
くて、おはします程なる。夜中あけきのこと
よもすがらしらくてさうふと思ほしそて、嫁
べいばしきこえてまつしき清くしもなる。さをば
きこしめさ代。女房のまゐる。志しある事の人か
よふやうなるん。さうしめすことわりなかいく
しきことなり。番なることふ。絶どもいそぎあるい
人さてらん。おもしてはいなやうなふ施う

ぞこせのへまいけら面ちしめことなれば、おき
がいられやまひともく侍りて、ぞおつきまつる
こそは、月ごろとてまりて侍れば、おぶいもえまり
侍しぶきまべきをのこどもは、けぶいそくま侍し
きつりことを侍り侍は、さみしさび（非常）しやうのへのき
めしこんをがいりぞゥうけ面ちしおやうし侍
らんとうん侍しきせ侍つぎよういして、きあへびせ
あきさここもあらがどもくらんぞきし発給べき
よしあん、お侍きゞしく侍つれば、いふかる思せごつやく
まうとゝぞそれより侍し、いみを、（たきん）ぞくしてり、あくるあの
あまんふりも、いともの（あ）おそろしう、いくへもやくぞ（羽）あり

や。ゝてきをしまうらぬことがかきこゝしめ也。
ものゝうしこきゆゑんしうちあり。ゆゑりそこも
待しめよらずらげくめれとは此のうちにてや
うれしく御しれさりめおすべ思ひうすりかへしま。
無おべへもりじめれやゝまもおしずこれ身のゆかり
ぞとひつゝおやしきがたとのこまつてすれば。
夜（や）ひ（おやう）さずまをぬまとよろこぶ。念（ねん）いげましくゞ早
ひとあしくるりめべきこゝろあらとおぼすまご（句）や
まりれいうさしくと気けのことつてりあえとの縁。
ひとりつゞしくるんともてもりてもひとし
さらくまつけてうとうちておもこそはむこゝろあし。

我身ひとつのうくなるんのみこそあやすくしゐ。
（大和物語生田ノ川ノ事など）昔へけさうずる人のありさ傍のいづれとさまらずて
ワづらひてゞゐるこそ。これきうずらあしも有それ。
なづ人ハなすをずうえこゝろあべき身のなく
なうんハおまるゝおしりくべきおやもしらしこそ
なげき結ゐめ。おまるのなどもあけりひろを乃
づゝワされ昔つくそん。ありなづゝまそそこなひ。
人ワ人なすさ傍まてさすへんハまなる地さらひ
なうべしなづきひなる。こ（地）あさ思ともま。ふ代く
とこ有れど。けもきう世の有さ傍をまもうるゝすく
なるて。おつしこそするへましあれハずゝしとぞ

あるべきこと侍らぬけんしやうし。じ（法）つくしこゝろぐ（反古）
かゞやかしておどろくしく一ひともとにてめ侍る。
さうざいのやうなやさしきあまかげ入さをかげ。やうく
うしなふころもとめござりへ。佛（供尊心）へつくりすかべ
されば。つれ〴〵なる月日をへて。いまさく志あり發
めぐりてあすしひあまどを。やう侍るまりと思ふ。侍經
あざらぞこゝろゆかし。おどろく（侍御）いさゝせ侍。哀なりけり
中なれば心とゞめてさとりしかへ分文は。人入り
こそこゝろをせ侍いざらめ。佛のそこころぞもちをもて
かくんすかちん。ほどくことゝつけて。いふとおもはれけ
物ぐさぐらるめでまされまるづく。ひがことげる

此度の薬をつくさせのまし候ば。のこややしや給
あすけるさこいふ。（浮詞）おまへむつかしく。ちづくぶ
せうじこさ身まこそあめれ。おちらぶまりて。人（白）きんれ
さめもいと。おしりくん。さうしらまこれをこりどさ
けんしまるぞ。ありこきて給りんこそもづくしえれちぞ
の給。（浮ふし）心ぼそこきしと候やまそもりまへ。まくずえむこ門
まじこきけざちりくり。おちやとくこそちくちろ人と。
いとつくあまりものみれどちぞ。さふすずまは日のこさく
かうこくともいふ。（三月）女日あまりまもちりぬ。（久氏）枝（受領）家あ
じ。女八日まくぶるべし。（白）いや先。（文句）その願りあるしず
むりん。ちこと人ちぞまぞくくしきこ由まじこさ心

づゐひしのへ。これらが後よりハ受つぎてあり
まうう。さびし絵あすどの絵。さて（浮ん）あつまじこさら後
まで。ち（白ノ）りしうんよい後一家（うび）抱をも罕すず。あびつ
ゐるくて色しまんとてよ。又時の後までもいぞ
ころはかなをまなんとすり。ひろく假（うしこ）て行給
たんさ後あどとやつよ。例のおもげなれず。さて
ずつるしくて。これ文をうはまさしあてても。さだらしハ
つめぞ。いとふしくあさき絵。おをあざ（たゞ詞字）むかれ氣色
つねよ人ふそてまつりべし。やうしておやしるぞく
（被）らひゞ絵べあり。かりうづしひおもはさで。さうくさ
さう後よ罕しさせめてよ。おを絵しらば。おもけるさき

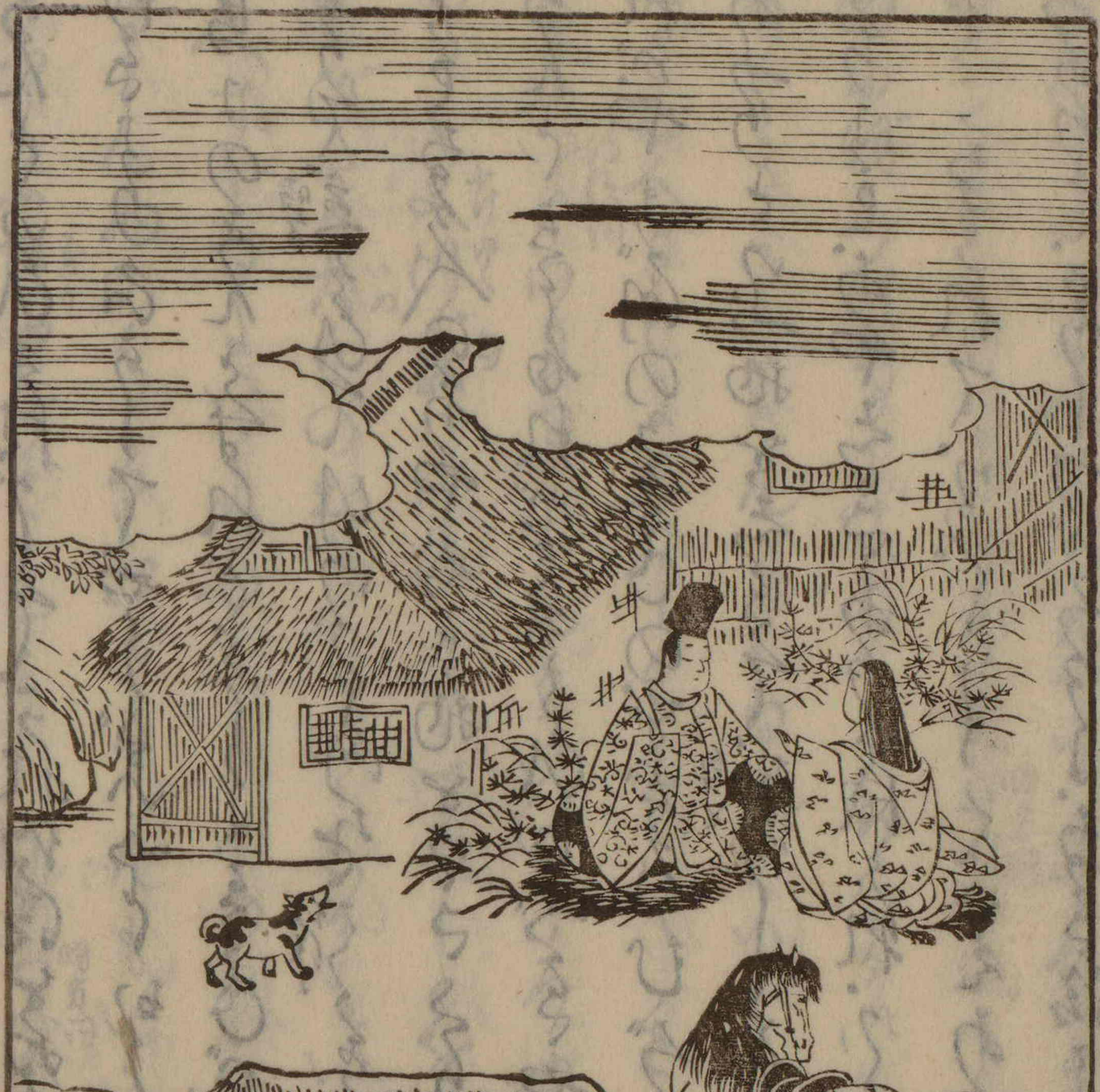
ことも。ごゝろいぶかしゆるじ。がらりちいさき
れなひとしは。空よりもぬでゝまつ世路あんと
いふ。と（落）づりしめしひて。く（羽）のことはそいとこう
うたれ。さりめべこさしらふ。けばこそおし梵。おほ
まじこゝとくゝされせとかまけりあすうくのこゝ
のこゝのやうまのまへぞい。まこととし。出路も
むさすまゝちるぞ。おほふまゝつけて。身のいとこ
ろうさちりとて。なすも罪へぬりずるうめく。泊（白）や
くのこゝある須うけひくそしことしあって。なすさん
さしぐまあすうは。ひ人（慧）のおかべこゝ歯まいひきうめて。
すうし心やすまるべこゝろまぞひさぐまりめうあめり。

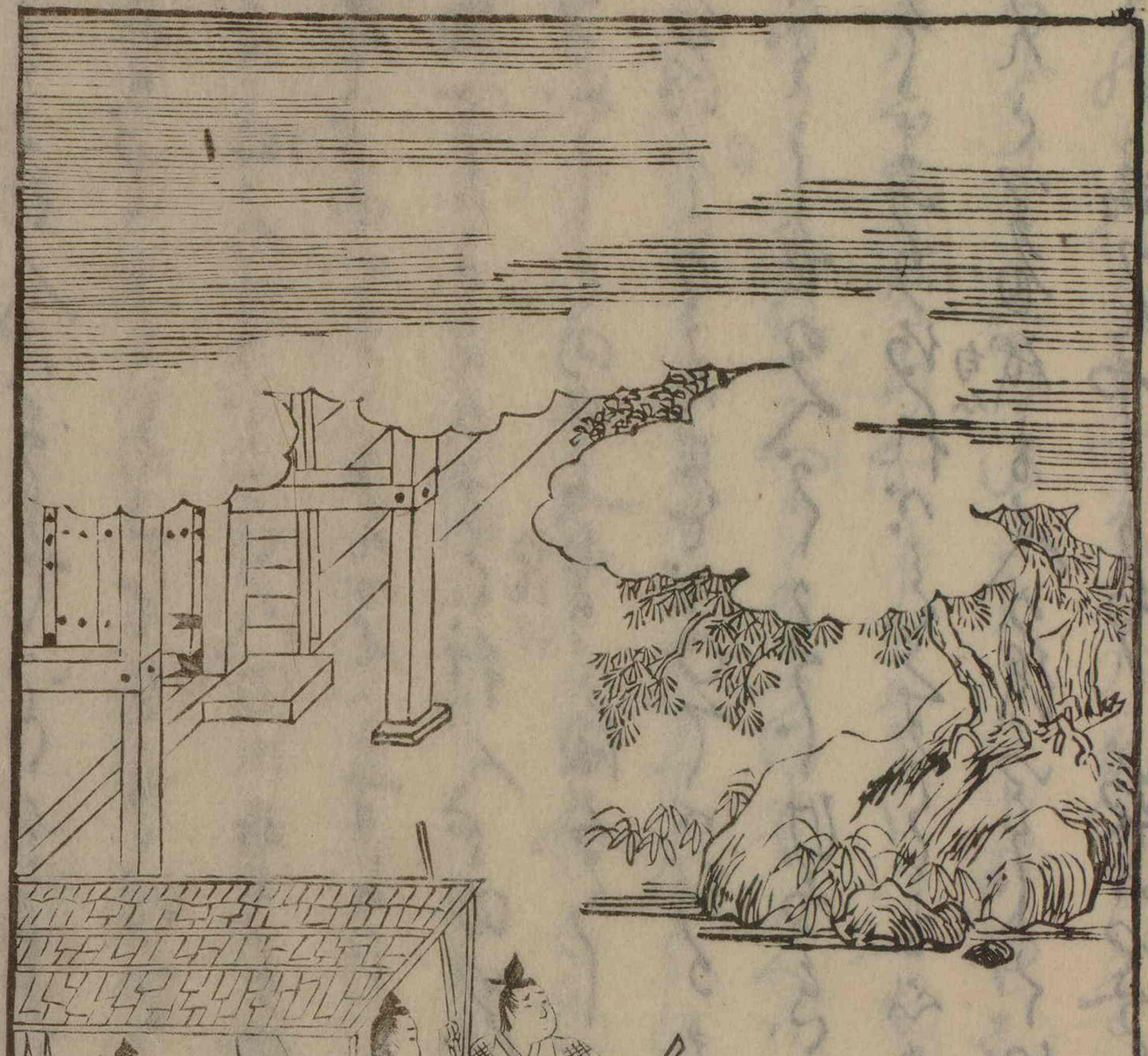
こゝろとく愛（あい）深物りこいと口おしくねこくさりけれ
我をば哀とおもひし物を。こひぬとぐつしば。人ご忘
いはねもすろくろはこゝろあすゝんろし。おぼ。おすゞめ緒より
うきもつぞ。じむかしこゝろはこゝちぬるか心ちしのへば。白御
のいらくおぼしめして。おりしもぬれけるさの
うきところは。御あまず。おれハさそといふ声ごいき
とげるが。白ぶちのそて。心ありのそのことを（あこく）いれければ
（紀の人）これをさへとふ。さゝげくのけるひまます。うづしも
しらて。京より。ときのれかこおかちとといふ。なとが
ずさの名をよびてあひさう。とりつくいと
じゆぼゆ。（在五行）ちうはこゑひいかのあなり。けらじくろ

ぢけなきことゞもいひをこり。宮（白ん）あぜくもてなるか
らんとおぼす。けるくて。（詞）まづ時方（出雲権守）いりて。侍従
まあのて。さるべきさまにさぶられとてつくろはせて。
（時方）かくことさひとまへて。どくひかまへて。君てあひ
うり。（侍従詞）いうまうまうわくん。彼殿（薫）の仰することもおもし
とて。我ゐよあり物だの。さうしぐりぶらふこゝろよて。
いとけりなさあり。（浮）おまへよも物とのいらく覚え
しうめらへ。うられことのくうじけなさを覚しらず
我くまこそいと心ぐるしくあんこそてまつゞさふる
こよひの人々しこゝ侍なが。中くはいとあしかりなん。
やがてさもれ心づかひをさせ給べかんなよ。ごてまも人

しれずしりまへてなんぼしらすべうめか。然けどれ
いさとさらとなどもくらう。らう（時方詞）おりしま候。こちら
のおぼろげなるず。おなぢちなきれんしこそよ。おや
なくこそうしさもんことなん。さいぐしこさうらば
いざめへとこよくうしくこさうてごをうまへといざ
なふ。い（約俗詞）とけりなるんといひしろかほどよ。我も
りく文り（おけゆく）。白家ハれ馬まですうしとめく立のくまよ。
呈びうむ犬（いぬ）の出きてのくさうも。いとおそろしく。
人ずくなまいとおやしつされありこさうれば。ずゞろ
なん地のとうかも出。こさうんも。いうえ内入りさと。
きふしふ限（かぎり）心かずまどうしける。なき候（時方詞）とくまり

あんどのひきはぐして。ご死骸をあてまりかくみけ
ゆきよりひろうて。やゝぶいゆと　おもしろきへあり。
馬はのきんとゑすれど。きよま○ばきぬのみすれと
とりて。立（時分）そひてり。ひりくりをとらきて（紛ほ）。こゝ（時分）ろくゝれ
ともあまへの。おやまさ抱をりさくり。まいりてゆく
あんどこそあれば。ひのあへきやうござるなけ
れば。やまびりの。くきの○の。どころむびぐのけり。
あかりと口ふ抱をおさそて。おそ（白と）しこそまいりゝ識（白ふ）れ
ゆかりまとおやまさあり為れ。かくかうちゝり
そこあそれて。ぼうぐしくいえあかまじゝきみ
かあかりと。堂りしつで。くよるま。おまき話ことかぶてりあすし





心みじかき人は、ましていとはじくなすしとゞこそ
まうはじきをおとをなまめかりとも、される
さるまじき人の心ありさまちりばかりあしひ
あそぶ（河）こともえ見えしさすまじきことがふらるれば。
は海さるはうるぞく行人どのひきしうらやう
あるべしとのゝふあり（結唇河）さ海くるしく見して、やがて
さればしめさん日をとゞめていらうまじこと海ふ。
ふがくりしせのへがくうじけなきことゞもなきに
そまうり待れば、ことすてものへかげり待
らんと思召、紙（白ん）も人の紙ゝじくおぼつかなし一ろは
うしこ絡りんやうあきし、東ハやうかけゆくま

これはまたとがめする犬（いぬ）の声たえず・人〳〵よひこえけ
なぐすまごらひさおすし・おやまちさちのこどもの
声して・火あやうしなどいふも・（白ノ）いとところあは
うしされば・くりあつめほど・いへがさしてう
（白）いづくよりたとがすらん白雲のかゝらぬ山
もちろくぞゆく・さしぞらやとて・此人（拾）をかくへし
ほた・（白ノ）れひしこさちす園めしく・おそれは・悪のなかき
露はしありけれ・はかうげしまゝど・ぬとん
うしなすくぞくりこそうが犬をとしいひこそり
つらうしいひねるなご（拾）さみ（はい）いとはくおもひしげる
よそお悟くそ・かしめくるま・（拾）いりさて・おりつるさ園

くるまは。うしへもとめども。牛のやうくうさめなかなを。
行いいるこうしんとつまし。けとめてこゝ。おや
しうんまうとをさへば。むづまふしうり。とみそれ
げはおびたゞしくて。望よむ。おやまさゞぢうなん。
けいうしあひのくとのこおりかなしあさいとり
そゝて。白語してつさゞうかのゝ徳ひちどの。
むかし字ぐ人やうはおばゆればんつことを
ぶはこゝろへずあすうしいちる浅は徳ひらへまうりて
ゆゞとさふ。み心のどうなるかさ徳まそこんとゆ
くすゑとをさるべきこと浅のあひはうひらむ。
いゞあげさんといとおしう。こみこさ徳はいひおす

人もあんこそでやかましうしけれど、こゝろおき
くるしうず、へわへなんを忘れさてまい
らんうまことども、たづねそ
（浮）あげきらびすをべずりともちあさらげるらさ
名ちがさんこととそこへおやもいと恋しく御へ
こゝるむめちくしうしの、ころよくやうあるからも恋し。
家のうへと（中）恋出さきむかまますべてまひとつび
ゆうしさんへおほうびとのはれとのくもみそめん
いそぎおやのやまといへ、ごくまいし（浮ル）ばらくまたと
るれがへまこつけしれずうでゆくべきうるさ
まうけつかれめまのまかちもあしくられ

ふしひろうり。おけそば。りのくぜをみやつけり。
此ほどのおゆこよりも程あさき心ちす。家（白）にはいらずき
こぐふねのあとより。う（浮ん）かまさしく人やえんとおもへど
人めすゞする。ふまてまもりつ渡
（浮）しづむるうき世のあさましきめずらしいけ
ことさらこもちもうしうん。とのいこそいづくしけ。
人葉（葉）すまも。うまきのなしことそまつりまし
されど。こころばかりさそ。ならわれぬわたらず
あれば。つるこそおもき海なんどいとうる
べし。すべていふちりけんと。られすもおぼつかう
かくてやこゝろんとおもひあはす。京より舟出ていく

まてこゝろ、れ（文付）ぬる秋の夢にひとさへはしもえし
き給つれば、ず猶さゝろぐにきかせなどし給ふ、
やがてその夢のこち、わすれざりつけ、や、らぐ今
ひろわれて待つゆめるま、人のい事とつふことあん
さし給つれば、おざゝさあらじとてまいりつばべくい、
しまをまへ、人（女二ノ霊を云ん）だしあれさうれす夜ねまて、ばずから
あこを給人のれゆりも、ひとおそろしくおちやまし
げる猶をきせ給、おりしもゆめみうるを、ぐるうげり（常陸解）
あんもぬかゞまいり夜ほしきを、かねのくの給（常陸女）
いと心まとゐるげなもの、げちてあやし給れば、ぐる
はもまちさうこと、ぶゞくいされ給てあん、その

ちかき寺にも・はず経をきかせめくらて・（詞）ふかれうの御文
あざりさそへてまて・さるわり・（浮）ぎりとやふ命の程を
きかせていひつけめぐらも・いとをしとおもふ・
寺へ人やりうるほど・（浮）母すなく・（文ノ詞）いかにまほしきこと
御ほうれども・ましくそうで
（浮）のちはまくあひえんとをさえちんてこの世の
事は心まどもでず・経の○の風はつきそこそて
らるを・つくとこうてかへり
（浮）う○のをとのこゆかひゞきは○のをとそへてわが世
つきぬとしるはつくへる・巻数（くわんじゆ）もてまゐりけさ
つそて・（母ノ詞）こゝひいえくへりまどとゝへじ・抛の段は

ゆひつけてとゞろが。みれしおやもちて心だしつとのすゞ
れ。ゆめもさまがしくとの結ちをうり川。あすかべ
よくきかくといはすゝめ。ふ（浮）うしとやかしまゝ。
（ゑそ詞）物こゝろしめさぬいとあやし。れゆづけちぎりよろづよ
いふかせ。さ（浮ん）うしぐるめれど。いとこゝろくおいちなりて。
我ちゝはいづくまゝおやんとをひやうとおふもうと
哀なり。世中まえありさまつゐしさうさ晦ふきさ。相乃
めしていきんちゃばすゝは。まりおざろうさ
れてさこぶつ相をつこゝめて。物もいはれど。右を
猶ちゃくかすらそうくのゝ物をおもはば。物やふ
人のふまじおゝは。おくぐるちゃるまみたまれば。ゆめも

さげしゑあんうじぶるとあばしさぶ
まりてぶるもくおりしまゑまんとうちあけ
くお（浮）へるゑめとゑふまなしあそかし海
へりよちあん

69038
6 AP78